

関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS No. 37 2009.3



Serve the World 21



創立125周年記念事業

生徒一人ひとりの成長を見守る

充実型教育環境の展開

六浦中学校・高等学校

2号館の建て替え

2号館が完成しました

「理科館」の愛称で親しまれてきた2号館の建て替え工事が終了しました。3階建てから4階建てに、各フロア1面積も広くなりました。

1階には、気軽に立ち寄れるように本館4階から図書室を移動、授業でも利用しやすいように特別教室（自習室）を隣接させました。また、興味をもったものを将来の進路につなげようとする進路指導室もこの1階に設けました。さらに、保健室やカウンセリングルームを配置するなど、このフロアは、普通教室と違う雰囲気を持ち、学校生活の中でゆとりを感じることが出来る空間です。

2階には、教員室、そして廊下を挟んで、生徒と教員がコミュニケーションを深

められる部屋（アシストルーム）を設けました。また多様な選択授業に対応するための特別教室も2つあります。

3階は、2つの生物実験室と生物準備室、物理実験室に化学実験室と物理・化学準備室、そして理科教員室を配置、理科教育機能が集中したフロア1です。これからの理科教育は、それぞれの専門分野の境界線を越えて融合した学際的傾向を帯びてくるものとも考えられます。それにも対応できるように理科教育機能をワンフロアに集中

させる形にしました。この新しい教育環境から、理科に興味を持ち、将来の夢や進路選択の幅が広がる生徒がたくさん出てきてほしいものです。

4階には、技術・家庭科実習室、調理実習室、技術・家庭科準備室を配置、家庭科の男女共修での調理実習や被服実習にも十分に対応できるようになっています。一方、特別教室4教室のうち2教室は、2クラスの合同利用が可能な広さをもつとともに視聴覚教室の機能を合わせ持っています。

省エネなど環境面にも配慮し、LAN端子も整備した新校舎は、授業設備ばかりではなく、ゆとりを持って学校生活

活を送ることのできる空間を備え、この環境のもとで生徒たちは幅広く成長していくと期待しています。

関東学院は、本年創立125周年を迎えます。この2号館建て替え事業は、本校の周年記念事業のひとつとして実施されました。この記念事業を進めるにあたり、多くの企業、団体・組織、個人の方々よりご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

新しい教育環境で、建学の精神そして校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと、これからの時代を担う人たちを社会に送り出すべく教育の業に教職員一同で取り組んで参ります。



Kanto Gakuin Mitsuura Junior and Senior High School

Completion of the Second Building
The reconstruction of the Second Building, called the "Rika (Science) Building," was completed and the old three-storied building has been rebuilt into a four-storied building with a larger floor area. In the new building, the library is located on the first floor and adjacent to it is a special room (study room for students). The Career Counseling Room, Nurse's Office, and Counseling Room are also located on the first floor. The atmosphere in the building is very relaxing. The Assist Room used to promote communication between teachers and students is located on the second floor. Two special rooms on the second floor are to be used for elective classes. Being exclusively designed for science education, the third floor consists of two biology laboratories, a biology preparation room, a physics laboratory, a chemistry laboratory, a physics and chemistry preparation room, and a science teachers' room. A room for practical training and domestic science and a room for cooking lessons are located on the building's fourth floor.

中学校新館の利用状況

明るい光とともに
子供達の心に響く学舎

△回遊性プランによる、

快適で機能性の高い校舎▽

2008年4月より、新校舎の使用が開始されました。初めてエントランスホールに足を踏み入れた生徒達は、「F I A T L U X」のレリーフを配す大階段を見て、歓声を上げながら駆け下りました。ライトコートから射す暖かい日差しや風によつて、生徒達に恵まれた学習環境を実現することが出来ました。ライトコートを中心に、ループ状に教室が配置されていますので、生徒達がお互いに活動する姿を確認し合い、より良い刺激を受け成長しています。教員室の入り口には、教室・部屋分の

広さがあるアシストセンターがあり、休み時間や放課後などを、生徒や教員が有意義に活用しています。教員室の入り口に、広いスペースがあることによつて、教員室の中で、生徒と教員が入り乱れることを防ぎ、落ち着いて会話が出来る重要なスペースになりました。

2階には、物理・化学・生物・地学の各分野と中学理科実験室と名付けられた5つの実験室があり、ひとり一台の顕微鏡や電子黒板が2台設置されています。これらの実験室は毎時間のように活用され、実験の最中には、生徒たちの目が真剣に輝いています。

実験室の廊下に面した展示コーナーには重さ12kgの隕石や40kgの火山弾、猿人から現代人までの頭骨模型、世界最初の生物群といわれるエディアカラ動物群の化石などが展示されています。地学室の中にもマンモスの歯の化石をはじめ、いろいろな時代の化石が並んでいます。本物の資料を常に子供たち

に見えるところに置き、そして授業でもそれを使って説明をします。これらによつて、生徒たちが理科実験室に来る時間が早くなりました。早く来て自分たちで展示を見たり、実験教室に備え付けの書籍を読んで勉強しています。展示の効果が出ているようです。

コベルホール(食堂)が、明るく広くなつたことで、生徒たちが一緒に食事をするスペースが増え、楽しく会話をしながら昼食をとることが出来るようになりました。また、コベルホールは、生徒達が使用するだけでなく、卒業生の同窓会や、学校説明会などにも多く使用されています。

Kanto Gakuin Junior and Senior High School

New school building filled with natural light, comfortable for learning

In April 2008, Kanto Gakuin Junior and Senior High School students moved to the new school building where warm natural light and a breeze coming from the light court provide a perfect learning environment for students.

Next to the teachers' room is the Assist Center. Students and teachers jointly make best use of this room. On the second floor, there are five laboratories equipped with microscopes for each student and two electronic boards. In the exhibit corner in a laboratory, meteorites, volcanic rocks, skull models and fossils are displayed. The rebuilt Covell Hall (canteen) is brighter and more accommodating than the old one. Students cheerfully chat and enjoy lunch there. Covell Hall is not only used by students but also available for various occasions such as alumni association meetings and information meetings about the school for prospective students and interested parties.



中学校新館の授業風景▲▶

CONTENTS

創立125周年記念事業 充実型教育環境の展開	1
学院のブランド力を高める 常務理事 吉沢寿朗	3
創立125周年記念事業を推進中	4
祝祭コンサート、 創立124周年記念式典	5
Campus Town Kanazawa協定締結	6
建学の精神を生きる「卒業生に聞く」 横浜市 開港150周年・創造都市事業本部長 川口良一氏	7
関東学院の源流を探る—29 元関東学院大学工学部長 山根雅信 先生	9
関東学院草創期の人々を偲ぶ	13
関東学院経営協議会の発足 教職員人事	14
「経済経営研究所」近況報告	15
KGU研究活動の最前線	16
関東学院各校NEWS	17
大学SCC館2・3階フロアリニューアル	23
生涯学習センター講座紹介	24
主な学校行事予定(4月~9月)	25

[カバー・ストーリー]

●六浦中学校・高等学校2号館建物概要●

建築面積	1,092.29㎡
延床面積	4,276.99㎡
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階
主要用途	1階:特別教室/図書館/進路指導室/ 保健室/カウンセリングルーム/ 応接室
	2階:特別教室/会議室/校長室/ 教員室/教員控室/アシストルーム
	3階:生物実験室/生物準備室/ 物理実験室/化学実験室/ 物理・化学準備室/理科教員室
	4階:技術・家庭科実習室/調理実習室/ 特別教室/多目的教室/ 技術・家庭科準備室
設計監理	株式会社山下設計 横浜支社
施工	西松建設株式会社 横浜支店

創立125周年を機に

学院のブランド力を高める

学校法人関東学院常務理事 吉沢寿朗

Toshio Yoshizawa



自己紹介と選任に伴う覚悟

私は、1949年から6年間、関東学院六浦中学校・高等学校に在学した関東学院の卒業生です。当時の教室は、旧海軍航空技術廠しゅうくわい工員養成所の施設をそのまま利用したもので教室の中央に柱の有る建物でした。生徒数も少なく寺子屋のようでしたが、坂田祐先生はじめ先生がたの慈愛あふれる教えを受け、「人になれ 奉仕せよ」を幾度となく聞かされて多感な少年時代を過ごしました。

その頃の文化的な刺激は東京に集中していたので、その刺激を受けたかったこともあり早稲田大学理工学部へ進学しました。大学卒業後は、同じ理由で東京エリアにしか営業地域の無い会社へ就職し定年過ぎまで働きました。この間、大過なくサラリーマン生活を送ることができたのも関東学院時代の教えがあったためと感謝しています。

リタイアの少し前に、ご縁あって母校関東学院の監事に選任され、約40年ぶりに六浦キャンパスを訪れた時、建物が非常に立派になっているものの、大学では特に1991年度をピークに10年間で受験希望者が半減しているという状況を知り、母校の社会的評価を少しでも高めることが

必要であると思いました。

監事として勤めた2006年10月までの8年間で更に危機感は募りましたが、残念ながら、理事会では関東学院の将来についての議論はなかなか進まず、私はそのことに責任を感じておりましたし、ジレンマも感じていました。昨年4月に常務理事に選任され再び母校に戻った今、「一粒の麦」として関東学院再生の一翼を担いたいと考えています。

関東学院の再生に向けて

横浜山手に生まれた関東学院の125年間の歴史は、校訓「人になれ 奉仕せよ」の教えの下で、学業に専念し自らの可能性を切り拓いた多くの有為な卒業生を送り出してきた輝かしい歴史です。創立125周年の機会を捉えて、関東学院のブランド力教育力を総合的に高め、更なる発展・飛躍を図るための基盤を「層強化していきたい」と考えています。

長い目で見ると、学院の規模が大きくなるに従って一体感が徐々に失われ、各校がそれぞれ独自に運営する形だけの総合学院になっているように思われます。やはり学院全体の要となるコンセプトあるいは基軸となるものの再構築が必要と考えます。

その具体的方策として、創立150周

年に向けた「関東学院ブランドデザイン」の策定と共に、喫緊の課題を解決すべく各種のプロジェクトを立ち上げて解決策を策定し、速やかに実行していきます。

校訓「人になれ 奉仕せよ」をより具体的に示す「関東学院ミッションステートメント」を策定するプロジェクトや関東学院を取り巻くステークホルダーの本学院への意識意見を広範に収集・分析し、我らの学院の進むべき道を検討するプロジェクトなどがあります。

更に、組織力を向上させるためのプロジェクトを考えています。学院運営には、経営と教学の両輪が、また、教員と職員との両輪がスムーズに連動することが不可欠です。このため、理事会のガバナビリティを高めると共に、新たに設けた「経営協議会」（学外の高名な経営者6人と学院側から理事長、学院長など6人で構成）を通して外部から率直な意見を伺い、学院経営に反映していきたいと考えています。

Hoping to improve the brand image of Kanto Gakuin by taking advantage of its 125th anniversary

Toshio Yoshizawa, Managing Director of Kanto Gakuin
Managing Director Toshio Yoshizawa, who has experience working for a company after graduating from Kanto Gakuin's Mitsuura Junior High and Senior High School, said that he has attended alumni reunions in recent years where participants have expressed their concern about the deteriorating social reputation of Kanto Gakuin. It is sad for him to hear such a concern because he loves his alma mater very much. After serving as auditor for Kanto Gakuin for eight years, he is now serving as Managing Director. He hopes to take advantage of the 125th anniversary of Kanto Gakuin to improve its brand image. He talked about a plan to restore the reputation of the school, including ideas on how to address pressing issues as a part of the 125th anniversary project.

また、「校長会議」（学院長と大学長を始め各校長で構成）の活性化を図ります。同時に、職責権限を明確化させ業務処理の単純化・迅速化を計り、経費節減を実現していきたいと考えています。ブランド力向上の決め手は、やはり質の高い卒業生を世に送り出すことです。その卒業生が社会の各界で活躍すれば、自ずと関東学院の社会的評価は高まります。現在は、入学者のレベルを上げることや人数を集めることに関心が向き過ぎていくように思われますが、入学時のレベルではなく、入学後にしっかり教育し、社会から期待される人材として世に送り出す「入るのは簡単だが卒業するのは大変」という学生の育て方も必要だと思えます。各校の強みを中心に広報活動を強力に展開することはもちろんですが、質の高い卒業生を送り出すことこそが最大の再生ポイントになると考えています。

創立125周年記念事業推進中

Serve the World 21 未来へ繋ぐ 建学の心

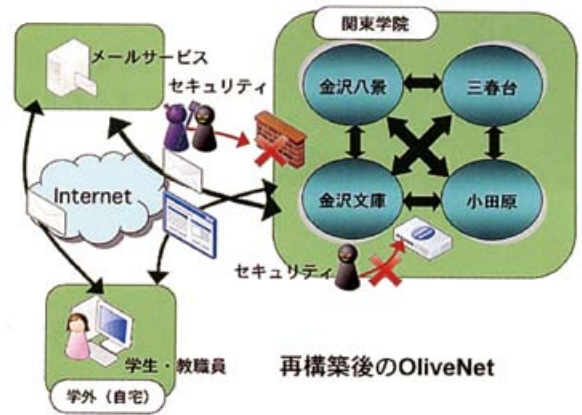
創立125周年記念事業は、「関東学院125年の新たな一歩にむけて」をコンセプトとし、「Serve the World 21」を基本テーマに、学院の教育力を総合的に高めることを目的として推進しています。その大きな2本の柱とオール関東学院で実施する記念特別事業についてご紹介します。

学院ビジョンの策定事業

1.『関東学院グランドデザイン ～創立150周年に向けて～』の策定

本テーマは、広範な議論・検討を積み重ねて策定されるべきものです。そこで、「グランドデザイン検討委員会」を設け作業を始めています。まず次の作業から着手しています。

- (1)校訓「人になれ 奉仕せよ」をより具体化した「ミッションステートメント」を策定する作業。
- (2)関東学院に連なるステークホルダーをはじめとする社会の意識・意見を広範に収集・分析する作業。
(社会における関東学院の存在価値を明確にし、それを学院の進むべき道を検討するための共通認識とします。)



2.Olive Netの再構築

ICT化社会の進展に対応し、ICT教育の充実を図るために学院内の情報ネットワーク(Olive Net)を再構築して、セキュリティ対策の充実を始め、無線LAN環境の整備などを実施します。また、運用管理面での単純化を実現する計画を進めています。

2009年 オール関東学院で実施予定の記念特別事業

- 関東学院フェア 2009年5月31日(日)～6月2日(火) 新都市ホール 横浜新都市ビル(そごう)9F 記念シンポジウム、卒業生交流、学院紹介など
- 創立記念祈禱会 2009年10月6日(火) 関東学院大学 礼拝堂
- 祝祭コンサート 2009年10月7日(水) 横浜みなとみらいホール 大ホール※詳細は次ページ
- 創立記念式典 2009年10月10日(土) パシフィコ横浜 会議センター メインホール
- 学院クリスマスコンサート 2009年12月18日(金) 横浜みなとみらいホール 大ホール
- 出版・制作 『関東学院の源流を探る』2009年10月出版予定、『関東学院125年史』2009年度中発行予定 『学院歴史紹介DVD(仮称)』2009年3月完成予定、『KG人録記(仮称)』2009年以降

Kanto Gakuin 125th Anniversary Ongoing Projects

Based on the concept of "For the first step for Kanto Gakuin following the 125-year history" and organized with the basic theme of "Serve the World 21," Kanto Gakuin's 125th Anniversary events and projects aim at enhancing comprehensively the educational excellence of Kanto Gakuin.

Establishment of Kanto Gakuin Vision

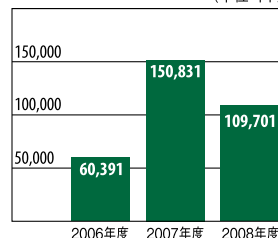
1. Establishment of the "Kanto Gakuin Grand Design - Toward the 150th Anniversary -"
This theme should be built on extensive discussion and analysis. Thus, the "Grand Design Planning Committee" has been formed and has begun their work toward the goal.

2. Re-establishment of the Olive Net
In order to improve the ICT education, we are planning to re-establish the Olive Net, the Kanto Gakuin's information network. The re-establishment aims to address various issues as well as to improve the security measures and wireless LAN communication environment. This re-establishment will also help to simplify its management and operation.

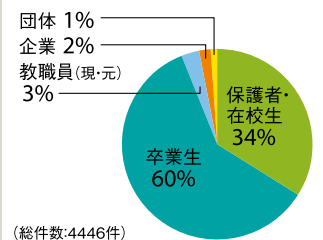
募金事業

募金事業を創立記念事業の一環として2006年に立ち上げました。2008年12月31日現在、金額320,923,627円、件数4,446件で目標額10億円の約3割に達したところです。みなさまのご支援にお礼申し上げます。

●募金総額の推移 (単位:千円)



●ご協力いただいた皆様の内訳



創立125周年記念祝祭コンサート

■2008年10月6日(月)
 ▲学院創立記念日▼

祝祭コンサート「プレコンサート」は、学院創立記念日に横浜みなとみらいホール大ホールにおいて盛大に行われました。このプレコンサートでは関東学院に連なる人々によって「関東学院創立125周年記念祝祭合唱団」が組織され、モーツァルト「戴冠ミサ」を団員100名で立派に歌いました。



■2009年10月7日(水)
 ▲学院創立記念週間に実施予定▼

2009年は祝祭コンサート本番の年になります。会場はプレコンサートと同じ横浜みなとみらいホール大ホールです。関東学院の125年という長い歴史と伝統を引き継ぎ、新しい関東学院の未来を切り開いてゆくために関東学院に関係のあるみなさまとともにコンサート会場に集いたいと思います。祝祭合唱団員も募集しています。今年の合唱はモーツァルト「荘厳ミサK.337」(予定)です。ぜひご参加ください。
 また、チケットの販売は詳細が決まり次第、学院ホームページでご案内いたします。

Kanto Gakuin 125th Anniversary Festival Concert

October 6, 2008 <Founding Anniversary day of Kanto Gakuin>

The 125th Anniversary pre-concert was held on the founding anniversary day at Yokohama Minato Mirai's Main Hall with great success. One hundred members of the Kanto Gakuin 125th Anniversary Festival Choir sang Mozart's Coronation Mass.

October 7, 2009 <Scheduled on one day of the founding anniversary week>

The Kanto Gakuin 125th Anniversary Festival Concert will be held in 2009. The 125th Anniversary Festival Choir is seeking applications for new members. The piece to be sung will be Mozart's Mass K.337(scheduled).

詳細は Webへ

関東学院 125記念事業 検索

Click!

「関東学院創立125周年記念祝祭合唱団」団員募集や祝祭コンサートに関するお問合わせ先
 創立125周年記念事業推進室 045-786-7036、7100

創立124周年記念式を挙行

Kanto Gakuin 124th Anniversary Ceremony

Monday, October 6, 2008 marked the 124th anniversary of Kanto Gakuin. A ceremony commemorating this event was held on Saturday, October 11th on the Kanazawa Hakkei campus of the university. A prayer service started at 9:00 in the morning at the chapel and was followed by the ceremony starting at 10:00 at Bennett Hall. During the ceremony, a mini concert by the university wind orchestra was held, and the Kanto Gakuin Choir sang. Various honors, length of service awards, and awards for the winners of the logo and mascot for Kanto Gakuin's 125th Anniversary celebration were presented at the ceremony.

永年勤続表彰受賞

勤続35年(8名)

大学	熊谷 秀樹 竹内 孝雄 保坂 哲也 石田 武雄 鈴木 晴喜 高梨 章子 都築 豊 九島 憲二
六浦小学校 法人事務局	

勤続25年(7名)

大学	宮本 守 植木 智恵子 楠元 仁子 山崎 浩一 太田 朗 田中 早苗 中村 文彦
中学校高等学校 法人事務局	

2008年10月6日(月)、関東学院は創立124周年を迎えました。10月11日(土)大学金沢八景キャンパス礼拝堂において午前9時から祈禱会、続いて10時からベンネットホールにおいて記念式典が挙行されました。記念式典では、大学吹奏楽部によるミニコンサート並びに関東学院聖歌隊による合唱の協力を得て、称号の贈呈及び永年勤続者、シンボルマーク&イメージキャラクター入賞者の表彰が行われました。
 なお、永年勤続表彰受賞者は次の方々です。



関東学院と金沢区役所、横浜市立大学が 連携推進に向けた協定を締結!

学校法人関東学院は、2008年11月18日に横浜市金沢区役所で、内藤幸穂理事長、石井洋一金沢区長、本多常高公立大学法人横浜市立大学理事長との三者で協定書を交わしました。この協定は、本学院と横浜市金沢区、横浜市立大学との三者が相互の密接な協力及び連携により、活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与するために、大学のあるまちづくり「キャンパスタウン金沢(Campus Town Kanazawa)」をめざすことを目的としています。また、本連携協力にあたり協議機関として、連携推進会議を設置し、横浜開港150周年記念事業での共同事業の企画や Campus Town Kanazawa サポート事業などの連携推進プロジェクトを検討実施していくことになります。

この締結を通して、次の取り組みを進めます。

本学院では、これまでも「人になれ 奉仕せよ」という校訓に基づき、「KGUふれあい祭り」や横浜市との共同による親と子のつどいの広場「おりーぶ」の運営などを通じ



調印式風景

前列左から内藤幸穂理事長、石井洋一金沢区長、本多常高横浜市立大学理事長、後列左から松井和則学長、布施勉横浜市立大学長

て、地域貢献・地域連携に取り組んできました。今回の協定書の締結を契機として、生涯学習事業の推進、学生の地域での活動の推進、教職員の活動と地域との連携を図っていきたいと考えています。また、金沢区では、この協定の締結を契機として、大学等の人的資源、施設、学生の行動力やアイデアを生かしながら、Campus Town Kanazawaを進め、地域の活性化や地域

課題の解決に取り組んでいきたいとしています。この他、横浜市立大学では、これまでも、地域課題の解決に向けた「地域貢献促進費」の活用、金沢区との共同による「国際交流ラウンジ」の設置など、地域貢献に取り組んでおり、金沢区をフィールドとした学生の活動や教員の地域課題への取組などをさらに進展させていきたいとしています。

Agreement for Cooperation among Kanto Gakuin, Kanazawa Ward Office and Yokohama City University

On November 18, 2008 Kanto Gakuin formalized an agreement with Kanazawa Ward Office and Yokohama City University. The agreement was signed by Sachio Naito, Chairman of Board of Trustees of Kanto Gakuin; Yoichi Ishii, Kanazawa Ward Mayor; and Tsunetaka Honda, Chairman of Yokohama City University. The goal of this agreement is to create the "Campus Town Kanazawa" through a close cooperation among the three parties and to contribute to the formation and development of a vibrant and unique local community. Under the agreement, a Cooperation Promotion Council will be established to undertake cooperative projects, including the joint project for the 150th Anniversary of the opening of the Yokohama Port and "Campus Town Kanazawa" Support Projects. In addition, the three parties are planning to promote lifetime learning projects, students' local activities, and cooperative activities between the two faculties and local community.

連携推進プロジェクトの概要

- ① 連携推進会議の設立
- ② Campus Town Kanazawa サポート事業の創設・運営
- ③ 大学と区内小学校との連携強化(関東学院大学)
- ④ 研究戦略プロジェクトを活用した区の地域課題への対応(横浜市立大学)
- ⑤ 地域行事への企画からの参加促進
- ⑥ 「金沢HAKKEN(横浜市立大学)」への取材協力
- ⑦ 大学祭、大学イベントへの行政の参加
- ⑧ 広報よこはま金沢区版への大学主催イベント等の掲載協力
- ⑨ 大学施設の市民開放の区民広報
- ⑩ 子育て支援拠点「とことこ」の運営協力(H20.4~関東学院大学)
- ⑪ 国際交流ラウンジの運営(H19.9~横浜市立大学)
- ⑫ 親と子のつどいの広場「おりーぶ」の運営(H18.12~関東学院六浦幼稚園)
- ⑬ 審議会委員・講師・アドバイザーの依頼

「記念の年をともに祝い連携を」

横浜市 開港150周年・創造都市事業本部長

川口 良一 氏

(聞き手：関東学院大学工学部長 平松 友康 氏)



平松 川口さんは関東学院小学校から中高と関東学院で過ごし、卒業後は日本大学へ進まれたんですね。そして3年生の時に関東学院大学の工学部に編入されて1972年に卒業、その後横浜市に入庁されて現在は開港150周年・創造都市事業本部長ですね。お父さまが故川口英雄大学名誉教授は工業専門学校を含めて関東学院大学に47年も奉職され、その間に学部長、学部長、学長代行代理、常務理事を歴任されました。川口さんが大学に戻られた時、ちょうどお父さまが学部長だったと思うのですが、やりにくくなかったですか。

川口 学科が違いましたから、ほとんど顔を合わせることはありませんでした。

平松 関東学院の小学校に入学したのはお父さまが勤めておられたからですか。

川口 我が家では祖父の代から、男は関東学院で女は雙葉学園という伝統があったので、ほかの学校は考えませんでした。私の子どもも関東学院でお世話になりました。私自身は小学校時代が一番思い出深いですね。当時は戦後すぐだったので公立の小学校に比べると自由な雰囲気、面白い教育を受けさせていただきました。先生たちも個性的で教育熱心でした。1クラス36人で女子が8人ぐらい、こぢんまりとした小学校で校舎も木造でした。

平松 当時から礼拝は行っていましたか。

川口 礼拝も行っていましたし、賛美歌も歌っていました。その頃の学院長は坂田祐先生でしたが、「人になれ 奉仕せよ」という精神は、礼拝の中などで自然に身につけていきました。中学は1クラス50人以上で4クラス、高校になると6クラスになって成績別にベストクラスがあり、メンバーが固定



している感じでした。ですから中学と高校を通して密度の高い人間関係を築くことができました。

私が入ったのは人間関係が非常に穏やかだったことです。これは「人になれ 奉仕せよ」という精神が浸透していたからだと思います。私は未だに関東学院時代の同級生7〜8人と年に1〜2回は会食していますが、昔の人間関係がこれだけ長い間つながっているというのも関東学院の良さだと思います。

平松 川口さんが卒業されて何十年も経つていますが、互いを思いやる穏やかな人間関係は今も同じだと感じます。

川口 中学と高校時代は勉強よりもクラブ活動に熱心でした。美術部で金子先生と田崎卓先生の指導を受けていました。それと新聞部で新聞を発行していました。夢中になれることに没頭し、それを真剣に深めた経験が今に生きていると思っています。

平松 関東学院大学に編入したのは、日本大学の学園紛争が原因ですか。

川口 あの頃の日本大学は1回学園封鎖になって、その後、大学に戻ったのですが先生もいないし人間関係も崩壊してしまっていました。それで大学を辞めてどこかに就職しようかとも考えたのですが、親は大学へ行つたほうが良いと言うので関東学院大学に入りました。土木工学科には2部から転入した人や社会人などいろいろな人が

いて、親しい友だちもできました。私は川英憲先生の指導で橋梁関係の卒業研究に取り組んでいましたから、夏休みは卒業制作のために生コン練つたり鉄筋曲げたりしていました。その他には何人かの仲間と遊びに行つたり、学生らしい生活で楽しかったですね。でも4年生の後半は学園紛争の影響で大学がロックアウトしていましたから、卒業試験はなくてレポートを提出して終りでした。我々が卒業する頃は卒業式どころではなくて、いろいろな意味で周囲がざわついていました。

平松 ともかくも卒業して横浜市に勤められたんですね。

川口 私は大学で橋梁を学んでいたのが公共的な工事を手がける役所のほうが良いかなと思ったのです。当時は飛鳥田雄さんが市長を務めておられて、飛鳥田市政というのは学生に人気がありました。それに地元ということもあつて横浜市に就職したのです。

平松 開港150周年・創造都市事業部に関わつたのはどのようなきっかけですか。

川口 私が企画調整部長になった時に、横浜市の中心市街地、馬車道や関内などが寂れ、オフィスの空室率が上昇していることが問題になりました。そこで委員会を組織し中心市街地の活性化をどうすれば良いか議論しました。その時に出てきたのが「創造都市」という考え方でした。今後都市人口は増えない、そのため再開発とかスクラップ&ビルドではなく文化・芸術





川口 良一氏 略歴

【学歴】

昭和35年3月 関東学院小学校卒業
 昭和41年3月 関東学院高等学校卒業
 昭和47年3月 関東学院大学 工学部第一部 土木工学科卒業

【職歴】

昭和47年4月 横浜市 入庁

Peaceful and meaningful relationships built on the spirit behind the foundation of Kanto Gakuin

Ryoichi Kawaguchi, who assumes heavy responsibilities as Executive Director of the 150th Anniversary of the Port Opening and Creative City Headquarters, studied at Kanto Gakuin from elementary school to senior high school. After studying at Nihon University for two years, he returned to Kanto Gakuin to study at the College of Engineering. His father was on the staff of Kanto Gakuin University for 47 years. Emphasizing a close connection between his family and Kanto Gakuin, Mr. Kawaguchi said, "It has been a tradition of our family to have boys study at Kanto Gakuin since my grandfather's generation, and I myself and my children also studied at Kanto Gakuin."

Remembering his days at Kanto Gakuin, he said that he received a unique and interesting elementary school education in a free atmosphere at Kanto Gakuin Primary School where he entered immediately after the war. He recalled that the school building was a small wooden structure, that he learned and assimilate the motto of the school "Be a man and serve the world" without conscious effort, and that it was fortunate that he was able to spend his school days in a peaceful relationship with others supported by the school motto ingrained in him. Still maintaining close friendships with his associates at Kanto Gakuin, he said that the good thing about Kanto Gakuin is that students can develop close and meaningful relationships with each other. He also talked about good memories associated with the art club at the high school and the blockades of the campus during the last few months at the university due to the campus dispute. He had no shortage of memories from his school days at Kanto Gakuin.

The major responsibility of the department where Mr. Kawaguchi belongs is to energize the city through cultural and art activities. The project commemorating the 150th anniversary of the opening of the Port of Yokohama, which he is currently involved in, is part of such efforts. The main feature of the project will be the "Opening of the Country, Opening of the Port Y150" events, which will be held in three areas, "Bayside Area", "Hillside Area" and "Mother Port Area". At the end of the interview, in response to his strong request for Kanto Gakuin to participate in the Creative City projects, Kanto Gakuin staff participating in the interview expressed their intention to do so.

で街を活性化するという提言がありました。それを実現するため事業本部を立ち上げ、私が本部長に就任しました。今年で5年目になりますが、その中で横浜開港150周年を記念した大きなイベントを実施することになったのです。創造都市という形のまちづくりと150周年のイベントを「過性に終わらせず街の中でそれを生かしていく、それと大きな国際会議、この3つを私の事業本部で行っています。平松 どのようなイベントを計画されているのですか。

川口 「海」「街」「自然」が生きる3つのエリアで、博覧会まではいかないけど博覧会のミニ版「開国博Y+150」を今年の4月28日から9月27日までの153日間の期間設定で開催します。

川口 大学がすごく立派になったことですね。私が大学生の時に通ったあの工学部の校舎でもすいぶん立派に感じたものですが、時代とともに驚くほど発展しましたね。

平松 発展という意味で言えば、工学部は5年前に改組して6学科設置していたのですが、2009年度からコース制に変わりました。教育プログラムとしては12コース、入学する時点から各コースに所属します。土木に関しては都市環境デザインコースと土木系公務員コース、数理コースを設けました。

川口 土木系公務員コースというのはどんな勉強をするのですか。

平松 近隣自治体から講師を招いて実学中心の勉強をします。それから自動車コースとロボットコースもあります。例えばロボットコースは電気と機械がコラボレーションして教えます。日産自動車の本社が横浜

市に移転するのも自動車コースを設けるきっかけになりました。

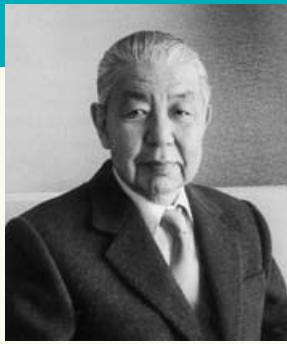
川口 映像クリエイションコースというのもできるのですか。

平松 このコースは非常に人気があります。スタジオやカメラなどかなり良いものがありますので、それを活用して映像クリエイターを育成します。

川口 話が戻りますが、私は創造都市というまちづくりを行っています。その中で横浜国立大学や神奈川大学などと連携したプロジェクトを実施しています。学生が都市の中でフィールドワークをやるのです。黄金町の京浜急行の高架下を横浜国立大学と神奈川大学のゼミに任せてまちづくりをやったのですが、学生は勉強にやるし実務の力がつくと非常に喜ばれています。私の母校でもあるし、関東学院大学も是非こういうプロジェクトに参加して欲しいですね。



平松 本学は今年125周年を迎え、横浜開港150周年と重なるので、是非いろいろな場面でコラボレーションさせていきたいです。本日はどうもありがとうございます。



山柁雅信

山柁雅信

Dr. Masanobu Yamamasu (1916-2003)

元 関東学院大学工学部長

日本プロテスタント史の三つの群れ

日本プロテスタント・キリスト教の初期時代において、注目すべき、三つの群れがあった。それらは「横浜バンド」「札幌バンド」「熊本バンド」である。横浜バンドの群れは、アメリカの改革派教会から派遣されたS・R・ブラウン(1810-80)とJ・H・バラ(1832-1920)のもとで教育を受けた人々である。明治5(1873)年、彼らは初週祈禱会を開いた。この祈禱会は止まることを知らず、多くの若者を巻き込

んだ。この仲間から、キリスト教界の指導者たちが生まれた。その中には、日本キリスト教界の代表的人物、植村正久、明治学院総理となった井深梶之助、青山学院院长となった本多庸一、東北学院院长となった押川方義らがいる。横浜バンドの中で、関東学院の最も古い源流である横浜バプテスト神学校と接点のあった人に旧大村藩士川勝鉄弥がいる。川勝は井深梶之助、本多庸一、熊野雄七らと共に、J・H・バラから洗礼を受けた。川勝はネイサン・ブラウンの聖書翻訳を手伝い、『志無也久世無志与』の完成に貢献した。川勝が補佐したネイサン・ブラウンの家で開かれた日本にいるアメリカ・バプテスト宣教師たちの会議でバプテスト神学校設立が決定された。彼はA・A・ベネツトと共に横浜第一浸礼教会のためにも働いた。横浜山手に設立されたバプテスト神学校では、星野光多が教授として教えている。星野もJ・H・バラから受洗した。星野は横浜フェリス女学校(今日のフェリス女学院)の教頭をつとめている。

熊本バンドの流れは、熊本洋学校に招かれたL・L・ジェーンズ(1837-1909)のもとに学んだ人々である。1876年1月に有志学生が郊外の花岡山に登り、「奉教趣意書」を朗読し、誓約署名をした。ジェーンズはこの学生たちを1876(明治9)年に創立された同志社に託した。こうして京都の同志社が熊本バンドの流れを継承した。

千葉勇五郎は仙台の旧制第二高等中学校から横浜英和学校に転じた。1890(明治23)年に川勝からバプテスマを受けて、横浜第二浸礼教会員となった。続いて東京英和学校(後の青山学院)に学んだ。千葉は日本バプテスト教会最初の留学生と

してコルビー大学、ロチェスター神学大学院に学んだ。帰国後、千葉は同志社女学校教頭を歴任した。千葉は東京に移っていた日本バプテスト神学校の校長にもなっている。この日本バプテスト神学校は戦前の関東学院神学部となった。戦後の関東学院大学神学部には片桐哲が旧約神学を教えていた。片桐は同志社大学神学部教授、同志社女子専門学校校長もつとめた。

札幌バンドの流れは、札幌農学校で教えたW・S・クラーク(1826-86)のもとで学んだ学生たちに始まった。彼らは「イエスを信ずる者の誓約」に署名した。札幌バンドは彼らの誓約を核として信徒による自発的伝道を受け継いできた。彼らの多くは官立学校に所属する学者や教師、公務員として勤務しつつ、聖書の研究の輪を広げ、その流れを維持してきた。

坂田祐は1902(明治35)年に有名な伝道者 木村清松の説教を聞き感動して、翌年、四谷浸礼教会においてバプテスマを受けた。1911(明治44)年、坂田は旧制の第二高等学校2年生の時に内村鑑三の門下に入ることが許された。それ以来、バプテスト教会員であると共に、内村の弟子の一人として生きた。内村の助言もあり、坂田らのグループ、白雨会(詩篇65:10に基づいて命名)が形成された。そのグループには、次のそうそうたる人物がいた。坂田祐(二高)、佐藤祐一(高商)、南原繁(帝大)、鈴木錠之助(慶応)、浅見審三(二高)、鈴木禎二(二高)、松本実三(二高)、石田三治(二高)、青木時(二高)。それから年たつて、千葉英雄(帝大)、星野鉄男(帝大)、さらに数ヵ月後、高谷道明(高商)が加わった。

関東学院は札幌バンドの系譜の人々を教師として持つようになった。同門の高谷

は高商部で教え、後に明治学院に移った。八木 勇は長崎県立師範学校を卒業して、小学校訓導(今日の教諭)、のちに公立小学校校長となった。内村鑑三の著書に出会ってその弟子となった。彼は1923年に中学関東学院の教師となった。ハス博士として有名な大賀 郎は同じく内村門下の人である。大賀は関東学院大学の設立にあたり、自然科学の教授として招かれた。

生い立ちと経歴

山柁雅信は、札幌バンドの系譜に属すると自認する。著書『クラークと内村鑑三の教育』の中で、札幌バンドと関東学院の結びつきについてこう記す。

「1979年(昭和54年)は関東学院が横浜三春台の今の地に創立されて60周年に当たる。同じ横浜の元町に近い山手の桜に囲まれた丘の下に、日本バプテスト伝道発祥(1873年)の小さい記念碑があるが、これが関東学院のキリスト教教育の源流を示すものである。さて私はもう一つの源流を紹介したい。それは、W・S・クラーク、内村鑑三、坂田祐の流れに沿うもので、両者ともに聖書を基とし、聖書から出発しているが、前者が牧師的であるのに対し、後者は軍人的であり、前者が神学的であるのに対して後者は自然科学的である。」

本学元工学部長名誉教授である川上親孝は山柁の教育について、こう論じている。「クラーク博士が身を挺して行った実物に即した教育と研究の方法は内村鑑三を畏敬する山柁教授の教育方針に引き継がれ、その情熱を教育と研究に向けて実施されて我々におおくの示唆を与えてくれた。」

(1982年「工学教育の源流を求めて」)
山柁雅信は1916(大正5)8月14

あるそうですね。

山柁 1921年の内村先生の日記には、横浜における坂田先生と父の事が次のように書かれています。

『3月11日(金)半晴、無風の日であった。正午久しぶりにて横浜に行き、諸友人の迎うる所となり、山柁が船長たる東海汽船巴洋丸に往った。造船所を出たばかりの新造船である。同行の兄弟4人と共に船長室に祈祷会を開き、この船とこの船長との上に神の祝福豊かに加はらん事を祈った。陸に帰り、野毛山につぎに新築されし関東学院の校舎を見た。米国バプテスト教会の経営になるもの、その規模大にしてその設備の完全なるに驚いた。その校長は文学士坂田祐君、旧き柏木連(当時の新宿柏木の内村先生宅に集まる弟子たちのこと)の一人である。その教頭並びに2、3の教師も亦同信の友である。かくして我が信仰の友にして汽船の長たる者あり、学校に長たる者あり、海と陸とは漸々に我が有に帰しつゝあるように感ずる』

大島 きつと内村先生は最新造船の航海の安全を祈ったように、関東学院の尊い使命達成を祈ってくださいましたのですね。

2. 敗戦から立ち上がる
山柁 第二次大戦中、関東学院専門学校は航空工業専門学校に変わりました。私は航空工学を専攻しておりましたので、坂



田先生は来てほしいと父に申されたのですが、海軍におりまして行けませんのでした。戦後すぐ、工

学関係の学校をつづけたいと坂田先生の御意向もあつて関東学院に來たのです。

大島 その時のお気持ち。

山柁 敗戦のとき内村先生の『デンマルク国の話』を読み直し、感激を新たに、して、『ダルガスは信仰と樹木によつて国を救つたが、私達は信仰と定規とコンパスによつて国を再興したい』との希望に燃え、学校では発明品の試作をしたり、私の父が、葉山に移築保存していた内村先生の住居の家などで学生諸君と聖書の集まりをいたしました。坂田先生、中居京先生も来て下さいました。(一部省略)

3. 工学部の教育(省略)

4. 科学教育を内村鑑三に学ぶ

大島 大学紛争後、先生は急に内村先生のお話しをされるようになりましたね。

山柁 紛争と母の死が重なった時なので。母も内村先生につかえ信頼され、先生亡きあと、特に葉山で内村全集をよく読んでいました。母の死後内村先生の本で新たに胸を打たれ、『研究十年』『二天英雄の伝道』『デンマルク国の話』『後世への最大遺物』を研究室の学生諸君と合宿などして一緒に読むようになり、この古い文章に皆共鳴してくれるようになりました。(一部省略)

5. アムハスト大学の教訓

大島 告知板で、『クラーク・内村鑑三』『デンマルク国の話』について書いていたことがありますが、ひとつ、アムハスト大学のシーリー先生の教育について内村先生が書いていることをお話し下さい。

山柁 第二はシーリー学長との出会いです。

『余(内村鑑三)は一見して彼は学者にあらずして人類の友なることをさとれり、瞬

時にして余は二種異様な安慰を感じり』

『彼が礼拝堂に立つて賛美歌を選んで唱和し、聖書を朗読し、そして祈るだけで満ちたり、よきことを成就する祈りの力を信じた。』

『神の愛はあまねく宇宙に発射されているから、我々は心を開くだけで神は我々を潔くしてくれる…。自分自身を愛するものは他人のため自己を与えるべきである』ことを教えられたと記しています。

大島 それは『人になれ、奉仕せよ』ですね。自然科学ではどんなことを内村先生は学ばれたのでしょうか。

山柁 地質鉱物学のエマーソンという教授は、野外でも、教室でも、何か実物を前にすると、夢中になって、その起源から他との比較、人に対する効用まで、とうとうと説明し、教科書はもろろん、授業予定も無視してしまふ様子が生き生きと書かれています。そして自然に問い、自然より学ぶことの大切さを強調しています。そしてさらに、本当の自然科学者は、自然という文字で書かれた本の思想を学ぶものであると教えています。後に『自然は第二の聖書である』と言われていますが、これはアムハストで学んだことだろうと思います。

大島 もう一つ人文社会関係についてお話しします。

山柁 歴史のモース教授からは最初の授業で強烈な印象を受け、その夜感激をもつて整理したノートは今も残っているそうです。

『歴史は人類進歩の記録なり、この進歩を扶助せしもの、あるいはこれを妨害せしものが歴史的人物あるいは歴史的国民なり。…国民興り人類全体に対するその使命を尽くして逝く、新国民起りて旧国民

の後をつぎ、旧文明に加うるにその特質と所得を以つてし、こうしてまたこれを後進の国民に譲る。国民おのおの世界に供すべき寄贈物あり、国民は失す然れども永久にわたるべきその刻印は決して消えず』云々。

この感銘から日本が世界に対して果たさなければならぬ使命について考えるようになったのです。それが後に明治、大正の青年に愛読された『地人論』『興国史談』となりました。内村先生は生物学で学んだ、発生・成長・進化の考えと、聖書の神の摂理と恩恵の信仰と合致した歴史観を形づくり、日本国民は東洋道徳を基礎にしたキリスト教の信仰を持つことによって西欧と東洋の仲介となり、さらに西欧の没落を救う使命を持つと考えるようになったようです。

大島 随分雄大な愛国心を持たれたのですね、そのものがアムハストでの勉強であったのです。さて、今日の日本の繁栄を見たら内村先生はどう考えられるでしょうか。

山柁 『日本は興りつつあるのか、滅びつつあるのか』との内村先生の言葉は、先生の亡きあと、困難な時も繁栄の時も、お弟子さん達によって警告に用いられました。今年内村鑑三の『歿後』50周年です。世界の危機、日本の腐敗の時です。内村先生の最後の直接のお弟子である政池仁氏は、内村先生の遺墨を示し、内村先生は今こう叫ぶと強調しています。それは『神を畏れ人を恐れず』です。(告知板「1つ3号」)

この対談で取り上げられたアムハスト大学は、マサチューセッツ州西部にある名門リベラルアーツカレッジである。新島襄の出身校でもある。今でも大学チャペル正面右

側の壁には、大きな新島の肖像画が掲げられている。また大学近くの墓地にW・S・クラークが眠っている。

後に続く者への言葉

山柁は特約教授として学内の激務から解放されてから、自由な立場で関東学院の教育を見つめて、今日の私たちに助言と戒めを残している。

「学内教授達とのある会合で、心理学の大御所の赤松先生は『教育とは学生の心に渦を巻き起こさせることですね』と語って下さった。…朝比奈峠を見ながら私は考えた、この平坦な新校地に、もつと激しく型破りで人を救うような教育と研究が行われるよう祈らなければならぬ。主が家を建てるのでなければ建てざる者の勤勞はむなし」『関東学院通信』16号より昭和59年(1984年)9月

山柁の研究分野が「うず」であった。このこととの関連で、よき意味のうずを巻き起こす教育と研究を山柁は期待している。

山柁は戦前の教育を受けた。そして戦後の教育については責任の一部を担った。「今日の日本の繁栄の基は…それまでの技術などを平和に生かそうと努力した賜物であったとすれば、私達も何がしのお手伝いをしたことになる」と誇りを持って、しかも謙虚に述懐する。それと共に反省を促す。「この繁栄が、内に対しては物的利潤の追求であり、人間の卑しき欲望の充足のみならず、精神の涸渇をもたらし、外に対して経済の侵略抗争との様相を呈することになったとすれば、昔の懺悔の心を知って国民に伝えなかつた教育者の責任も大いに問われなければならない。」(1984年)

関東学院の責任については、小さな安価

な奉仕ではなく、世界への貢献を訴えている。「バプテスト神学校が建てられた時の精神を戦後に受け継ぎ、すなわち神の赦しの恩恵によって救われて豊かな国となった日本が、教育と研究の力によって国際的に奉仕をなし、神の義と愛とを示すものでなければ、日本は再び神に見放されるかもしれない。」(1984年)

山柁の教育の根底にあるもの

ここに内村鑑三から受け継いだ預言者的発言がある。私たちはこれに傾聴すべきである。

山柁は「クラークと内村鑑三の教育」(1981年)の中で、「自分の教育の根底にあるものについて、述べてくれている。関東学院は、『戦争中には航空工業専門学校を設置したが、戦後入手した海軍技術教育施設跡の今の地で、工業教育を継続発展させることになり、筆者は父母と坂

田院長の関係からここに奉職した。このようにまず自分と関東学院との関わり初めについて記している。次に戦後間もなく、「内村鑑三の弟子で坂田院長と親しい、東京大学の名総長と言われた南原繁先生が、今の金沢八景の校舎に來られ講演された。」「南原先生は『桑田変じて碧海となす』という故事があるが、ここは『兵舎変じて学園となす』と思うと話された。』という。

昔、中国において戦争のために治水がうまくいかず美しい桑田が水没してしまつたという話があるが、「ここでは戦争のための施設が関東学院という学園に生まれ変わつて、日本を精神的に復興させることになるのだ。」と励まされたことを思い起こしている。次に山柁は本学工学部の教育の特色として三つを上げる。その第は、創立以來、聖書に基づく建学の精神を強調してきた。それは、様々の行事、キリスト教関係

科目一般教育などと関連して行われた。第二は、実験実習など即物教育の重視であった。これは日本の戦前の精神主義への反省を込めていた。「必要な実験も行かせないで、何が精神教育か」という認識から、教授たちは必要な装置を手作りして実験を行った。こうして「後に実験は卒業研究などにみられるように工学部の教育の重要な特徴となつた。」山柁はこう指摘する。「自然現象を、教授と学生とが一体になつて、たがいにコミュニケーションしながら探つていくというのは、科学の本質に触れる教育なのである。」第三は本学工学部には自然の宗教教育と言えるものがあるという。

さらに山柁は同書の中で内村の言葉を引用する。「宇宙は未だ完全なるものではない。これを完成する職分を神は人に委ねたのである」。山柁はこの「言葉は、我々に高き使命を感じさせるものであった」という。

1876. They later moved to Kyoto and studied in Doshisha School under Jo Nijima. This group was called 'Kumamoto Band.' Tasuku Sakata, the first chancellor of the Kanto Gakuin School System was the follower of Uchimura. Dr. Masanobu Yamamu was a son of Giichi Yamamasu, a captain of the merchant liners and a follower of Uchimura. When the war was over, he was invited to teach at the Kanto Gakuin School of Engineering. He was later made assistant professor at the college of engineering in 1949. His field of study was hydrodynamics. He emphasized the importance of experimentation in the education of engineering. As he was educated in the prewar Japan when the fascist government pursued spiritualism without reality, he knew the bitter defects of the prewar education in Japan. So he stressed the importance of the experimentation in the laboratory. As a Christian educator, he was convinced of the necessity of nurturing young students to work for the new Japan. So he contributed to introducing a Christian way of thinking and humanities to the education of the college of engineering. He invited students to his house and read Uchimura's books together. He was impressed with 'the Story of Denmark' which described the work of E.M. Dalgas, an engineering officer who returned from the defeated war (between Denmark and Prussia/Austria) in 1864. Dalgas embraced the tremendous vision of restoring the country through the Christian faith and the forestation plan of the wild moorland of Jutland. Dr. Yamamasu compared himself to Dalgas. He was also an engineering officer who returned from the defeated war. He entertained the high hope of establishing a new Japan through educating young people with the Christian mind.

Dr. Masanobu Yamamasu (1916-2003)

-promoter of the engineering education through experimentation The year 2009 is the 150th anniversary of the Protestant proclamation in Japan. In the early years of the Protestant beginnings in Japan, there appeared three influential groups of young Christians: so called 'Yokohama Band,' 'Sapporo Band' and 'Kumamoto Band.' In Yokohama a series of prayer meetings were held during the New Year days in 1872 among missionaries and English speaking residents. Some Japanese students participated in the meetings. Their own meetings drew the interest of the young people and continued until the end of February. As the fruit of their prayer meetings, the first Protestant congregation was organized in the same year. The young students who attended the meetings later became the leaders of the Christian churches in Japan. Colonel Dr. William Clark, President of the Massachusetts Agricultural College was temporarily invited to organize a similar institution in Sapporo. His character and teaching were permeated with the Christian spirit. On Sundays he preached the Gospel to the students at his residence. Though he stayed there for only nine months, he made a great influence among the first class of students. They decided to follow Christ and signed a covenant of believers in Christ in 1877. Kanzo Uchimura entered the school, Sapporo Agricultural School, after Dr. Clark had left. He was persuaded by the zealous seniors and became a Christian. He later became a famous lecturer of the Bible and the leader of the unique non-church movement and gathered young students around him. In Kumamoto, Kyushu Island, Captain L.L.Janes, a retired officer of the U.S. Army, attracted students to the Christian faith and the young students pledged themselves to God's service in

関東学院草創期の人々を偲ぶ

横浜外国人墓地記念会

2008年10月12日午後3時30分から横浜外国人墓地において、関東学院関係者に対する記念会が行なわれました。この記念会は、昨年からアルバート・アーノルド・ベンネット博士の召天日に同外国人墓地に眠る学院関係者を偲び礼拝を行っています。また、学院各校の持ち回りにより、本年は島

田正敏六浦小学校長の司式に執り行われ、松本昌子前学院長の説教の後、森島牧人学院長から挨拶がありました。その後、墓碑のあるアルバート・アーノルド・ベンネット博士、ネイサン・ブラウン博士、チャールズ・ヘンリー・ディ・フィッシャー教授、そして、チャールズ・バックリー・テンネー博士が自身の名前も墓碑に刻み記されたグレース夫人と令息ポールの墓前に献花を行ないました。



横浜外国人墓地にて

アルバート・アーノルド・ベンネット博士



1879年12月来日。1880年日本人伝道者養成のために神学教育を行う。1884年3月7日ブラウン博士宅で京浜地区の宣教師会があり、ベンネット博士の提議で神学校を設立することが可決。10月6日横浜バプテスト神学校を創設し校長となる。「聖書釈義」「説教学」を担当。ベンネット博士は25年間バプテスト神学校教授として学生を指導、最初の10年は校長。1909年10月12日召天。横浜外国人墓地に埋葬される。墓碑銘 He Lived to Serve.

ネイサン・ブラウン博士



1873年に65歳で来日。聖書の翻訳に使命を持ち、1879年に72歳で日本語最初の新約聖書全訳を平仮名表記により翻訳出版した。ブラウン博士はベンネット博士が進めていた神学校創設を側面から援助し、1884年3月7日ブラウン博士の自宅で行われた京浜地区の宣教師会で、ベンネット博士が提案した神学校創設を受け入れ、神学校のために土地と建物が購入できるように、ミッション本部に依頼した。1886年1月1日召天。横浜外国人墓地に埋葬される。墓碑銘 God bless the Japanese.

チャールズ・ヘンリー・ディ・フィッシャー教授



1883年3月来日。1884年に横浜バプテスト神学校が開校した時の教授。宣教師として水戸に伝道中に、水戸中学校から英語教師の依頼があり、クレメント博士を斡旋した。クレメント博士が東京中学院の学院長になった時、その働きを助けた。中学関東学院創設の時、横浜地区を代表する宣教師としてその創設に参画した。来日37年間日本人を愛し、そのために全生涯を奉げ、1920年2月2日に横浜で召天。横浜外国人墓地に埋葬される。

チャールズ・バックリー・テンネー博士(夫人グレース、令息ポール)



1900年来日。1908年に横浜バプテスト神学校教授就任。1910年9月27日、2人目の子の出産の際、妻グレースが出産時に逝去、子のポールも喪う。横浜外国人墓地に埋葬される。1913年に日本バプテスト神学校校長に就任。1918年12月東京学院学院長に就任。1919年私立中学関東学院設立者・理事長に就任。1927年財団法人関東学院組織され、東京学院がこれに合併し、学院長と神学部長に就任。1930年10月病のため学院長を辞任し、名誉院長に任ぜられる。同年帰国。1936年1月11日 アメリカで召天。

坂田祐先生墓前礼拝

2008年12月16日午前11時から横浜市営三ツ沢墓地において、中学関東学院初代学院長坂田祐先生の召天後39年の墓前礼拝が行われました。本年度担当校の阪井隆中高宗教主任の説教の後、お花が献げられました。



横浜市営三ツ沢墓地
坂田祐先生の墓前



坂田 祐先生

1878年会津藩士の子孫として秋田県に生まれ、若き日に軍人として生涯を始めた。日露戦争従軍後、東京学院(関東学院の源流)、旧制第一高等学校、東京帝国大学に学ぶ。この間内村鑑三に師事、感化を受けた。卒業後母校東京学院で教え、1919年開設した中学関東学院の学院長として、校訓「人になれ 奉仕せよ」を定めた。軍国主義時代にもキリスト教に基づく教育を守り、第二次世界大戦後の教育制度のもとで関東学院各学校の発展に尽力し、半世紀にわたる生涯を関東学院に捧げて、1969年91歳で天に召された。著書に「恩寵の生涯」がある。

Service at Yokohama's Foreigner's Cemetery

A ceremony to offer prayers for the deceased connected with Kanto Gakuin was held at the Yokohama Foreigner's Cemetery from 3:30 pm on October 12, 2008. This ceremony started in 2007 on the anniversary of the death of Dr. Albert Arnold Bennett to remember those buried in the cemetery. Following the sermon by the former Chancellor, Masako Matsumoto, the present Chancellor, Makito Morishima, delivered an address.

On December 16, 2008 from 11:00 am, another service was held at the Yokohama Municipal Mitsuzawa Cemetery for the 39th anniversary on the death of the first Chancellor, Tasuku Sakata.

関東学院経営協議会の発足

本学院の運営に第三者の意見を取り入れてはとの構想はかねてからあった。一昨年末の一課外活動事件を契機に、この構想が実現を見た。すなわち、学外有識者と本学院理事各々6名から成る「経営協議会」が毎年、春季と秋季に開催されることになった。学外委員(任期2年)には下記のとおり6名の方々の快諾が得られた。

こうして、昨年10月1日に初の協

議会が開催された。本学院諸資料や報告を踏まえて、各委員(1名欠席)から、とくに大学教育のあるべき姿、一貫教育の充実、伝統あるキリスト教系学校への期待感等の提言や激励の辞が述べられた。会議の終盤には、他の理事、監事等を交えた懇談の場も設けられ、計2時間の初会合が緊張のうちにも和やかに終わった。

本学院の運営は、かつての学園紛争以来、内向性を強めてきたが、現在、より外向性を強める転機を迎えつつある。その意味で、本協議会の発足は時宜にかなっており、その協議内容を本学院の発展の糧として活用することが私たちに課されている。

(常務理事 星野彰男)



Establishment of the Kanto Gakuin Management Council

The Management Council, consisting of six external experts and six board members of Kanto Gakuin, has been established. The council meetings are held twice annually, in the spring and fall. On October 1, 2008, the first meeting was held and each member presented proposals for what university education should be and for improvement in our integrated educational system from kindergarten to university. They also expressed their expectations for our long-established Christian school and offered some words of encouragement.

学外委員紹介 (五十音順)

- 岡村 正氏 日本商工会議所会頭、株式会社 東芝 取締役会長
- 北城恪太郎氏 日本アイ・ビー・エム株式会社 最高顧問(前 経済同友会代表幹事)
- 公文 宏氏 学校法人女子学院理事長(元 国土事務次官)
- 小谷 昌氏 京浜急行電鉄株式会社 取締役会長
- 平澤 貞昭氏 株式会社横浜銀行 特別顧問(元 大蔵事務次官)
- 増田日出雄氏 日揮株式会社 代表取締役副会長兼財務統括担当役員(CFO)

①所属 ②専門分野・担当科目 ③就任年月日 ④最終学歴

教職員人事



新任嘱託職員

澤野 瑞穂
さわの みずほ
①大学 人間環境学部庶務課
②平成20年11月1日
③関東学院大学工学部



新任職員

上島 洋佑
うえはた ようすけ
①法人事務局 総務課 書記
②平成20年10月1日
③広島大学工学部



新任職員

青木 麗子
あおき れいこ
①大学 学長事務室 書記
②平成20年10月1日
③同志社大学文学部



新任契約講師

窪田 晴子
くぼた はるこ
①小学校 教諭
②平成20年9月1日
③帝塚山学院大学文学部



新任任期制教員

平野 晃昭
ひらの てるあき
①大学 工学部情報ネットメディア工学科 助教
②情報工学及び映像処理・製作に関する分野
③平成20年9月1日
④工学院大学大学院工学研究科 博士(工学)

「経済経営研究所」近況報告



所長
大住 荘四郎

経済経営研究所とは？

「経済経営研究所」は、本学経済学部附属研究所として、経済学・経営学の理論研究と実証分析においてすぐれた成果を生み出し、それを社会に還元していくことを目的としています。

この目的を実現するために、本研究は「研究プロジェクト」方式を採用しています。現在は、研究所長を中心としたプロジェクトをはじめとして、8のプロジェクトを核に研究を進めています。研究成果は、本研究所が年に1度発行している『経済経営研

究年報』に掲載され、また公開講座を開催し、研究成果の社会への還元にも努めています。

プロジェクトメンバーは本学経済学部

教員を中心に、多くの外部研究者に参加

をお願いしており、他大学の研究者に加え、シンクタンク・企業・官庁などから多数の方がプロジェクトに参加しています。

経済経営研究所のいま

2008～09年度の2カ年の計画で進めている研究所長プロジェクト(テーマ: 21世紀型公共組織―マネジメントと市場分析)をご紹介します。

公共組織・地域・NPO・企業でも、組織のあり方や捉え方が大きく変貌しています。かつては、組織は「機械」のようなもの(メタフォア)で、職位に基づき権限と役割が分担されたヒエラルキー的なイメージで捉えられてきました。このような20世紀型組織は、組織を取り巻く環境が比較的安定している変化のテンポが遅い場合、つまり組織全体のミッション・目的が変化しない場合は、有効に機能するのですが、近年のように組織を取り巻く環境変化のスピードが速い時代では、環境変化に適応できなくなります。「機械」は特定の目的を果たすために造られますから、目的が変わると廃棄されてしまいます。廃棄されることは組織の解体です。からたいへんです。

21世紀型の組織は「生命体」(メタフォア)



ア)と捉えられています。「生命体」は、環境変化に適応し生き続け、成長しようとして増している現代では、組織のあり方そのものが大きく変貌しているのです。

20世紀型組織では、トップの指示のもとメンバーが役割に応じてその指示・命令を実行するという「管理型組織」がよいものと思われていました。環境が安定していれば、なにか問題が発生した場合でももっともよい解決策は過去の経験などから「ベストプラクティス」から学ぶことができるので、問題解決に必要な完全な情報をトップに集中させることにより「最適解」が選択できたのです。

しかし、21世紀型組織では、環境変化のスピードが加速度的に増しているため、過去の経験やプラクティスではうまく対処できません。すでに集めた情報も「過去のもの」となっている可能性が高いのです。このため、問題解決も入手可能な不完全な情報をもとに迅速な対応をし、その結果をみてさらに対処を行うという「試行錯誤」をしながら「適応解」を創出することが求められます。こうなると、トップに情報を集中してトップダウンでものを決定する進め方では対処できなくなっています。組織のメンバーがそれぞれの「気づき」から

自らの行動を実践するという「学習する組織」が志向されるのです。

本研究は、このような21世紀型組織を実現するための「コンセプト」「アプローチ」を公共組織や都市地域への応用を意図しています。ビジョン目的もトップが提示しメンバーに理解を求め(トップダウン・アプローチ)時代ではなく、参加意欲をもつメンバー全員による合意形成を進める方法(ホーリスティク・アプローチ)を採ります。これにより、参加したメンバーの「主体性」「情熱」「創造性」に基づく組織や都市地域が創造されていくことでしょう。



研究内容としては、21世紀型組織の背景にある学際的な理論の再構築を前提としながら、「学習する組織」づくりのための具体的なアプローチの再設計や実践を行っています。基礎研究のための研究会講義に、参加型のワークショップを定期的開催し、実際のアプローチを体験する機会を提供しています。

Update information on "Institute for Economics and Business Administration"

"The Institute for Economics and Business Administration" is a research institute affiliated with the College of Economics of Kanto Gakuin. The objective of the institute is to produce excellent results in theoretical research and positive analysis in economics and business administration and to contribute to society with results obtained through its activities. In order to achieve this goal, the Institute applies the "research project" system, under which eight main projects are currently ongoing. Results from research projects are reported in "The Annual Journal of the Institute for Economics and Business Administration" and presented to the public in open lectures. The Institute is now undertaking a two-year institute director's project for the 2008 and 2009 academic years. (The theme is: "21st Century-type Public Organization - Management and Market Analysis").

最先端研究と基礎教育の 両立に向けて



関東学院大学 工学部 物質生命科学科
川原一芳

競争的研究資金獲得に
必要とされるもの

国立大学が独立法人化した後、強い大学が文部科学省などの競争的資金を獲得して研究を進め、さらに強くなっていくという競争社会が誕生しました。必然的に、敗者にならないためには競争的研究資金を獲得するしかありません。私もこの3年間、科学技術振興調整費による研究グループの一員に加えてもらい、何とか研究を進めることができました。この研究は科学警察研究所が中心になって行っているテロ対策に関するもので、私のパートは、「神経ガスをバクテリアの酵素で分解し除染する」というものです。この場合は、グループリーダーに誘われて参加したので、特殊なケースと言えるかもしれません。一般的には、このような高額の研究資金を獲得するためには、①国がどの分野に研究費を用意しているかを調査する、②大学内外で研究グループを組織する、③審査員の心をキャッチできる申請書類を作成する、という手順が必要ですが、②については、仲間を集める感覚ではなく、研究業績がある人を集めることが重要です。この場合の研究業績とは、一流専門雑誌に英語で多数の論文を発表することを意味します。

現実とのギャップ

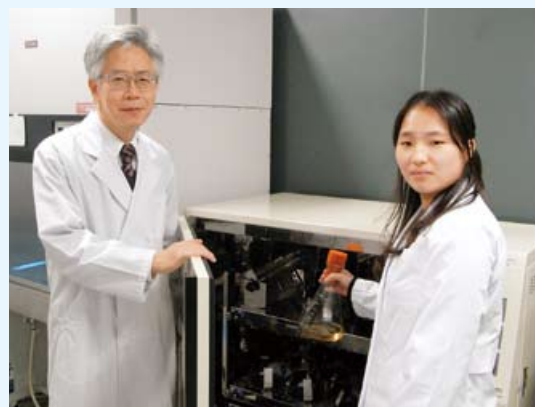
我が国の大学や国公立の研究所における研究設備は、一昔前と比べると格段に良くなりました。例えば、理化学研究所の鶴見研究所を見ると、その広さやそこに働く研究員の数にため息が出てしまいます。このような研究所ではプロジェクトリーダーのもとに多くの研究員が集まり昼夜を問わず働いて、一流誌にデータを発表していきます。しかし、この方式を本学に適応することが無理なことは明白です。

受験生は何に憧れ大学を目指すのか？

では、そんな夢のようなことは無理だと諦めていいのでしょうか？問題はそれほど単純ではありません。最初に述べたように、今や教員の最も重要な仕事は、受験生集めですが、では受験生達は大学の何を本当に集まってくるのでしょうか？受験生にとって大学とは研究が出来る憧れの場所、そしてトップクラスの研究を夢見て志望してくるのです。現実を知らない、と言ってしまうはそれまでですが、テレビで見るとようなピカピカの研究室、最新の機器、気鋭の教授などを夢見ている若者に文句を言うことはできません。

研究と教育の両立へ向けての戦略

では現実に戻って、わが工学部で何ができるのか？基礎教育の充実が目標とされる現状においては、個々の教員が独立してゼミ方式で研究を指導するのは仕方がないことです。これは一見、先に述べた理研などの体制とは真反対の研究環境です。しかしここで発想の転換をすると、かすか



な、しかし確かな光が見えてきます。何人かの教員がそれぞれの専門分野を持ち寄って共同研究ユニットを作るのです。これによりユニット全体が1つの研究室として機能するはずですが、このようなユニットがいくつか集まれば、巨大研究プロジェクトも申請可能となり、受験生の憧れを受け止めてやれる環境が現実のものとなってきます。この戦略が成功するか否かは私たちの努力次第ですが、私たちの大学が大学であり続けるためには他に道はないように思われます。

Strategy for the high-quality research and education systems

In recent Japan, a competitive system has been introduced for research grants given by the government, and active universities can obtain big research grants, and can further develop their research. For obtaining such national grants, collecting information in advance, organizing the research group, and preparing attractive application forms are essential. The research group should include productive researchers with many research papers published in first-class journals.

Although most research institutes such as Riken in Japan have many researchers and are very well facilitated, it is not the case at KGU. However, it is also true that we have to have advanced laboratories to charm high school students because many of them yearn for the modern research atmosphere in universities and colleges. The strategy to realize both the high-quality research and education systems in our university is to organize collaborative research units with professors in the common research field, who usually tend to act independently for education, and apply for the big national grants.

先日都内某所で、私が大学院時代を過ごした研究室のOB会があり、私は近況報告として「現在のメインの仕事は受験生集めです。」と挨拶してきました。もちろん半分はジョークですが、本音でもありません。現在の本学・工学部が直面している問題はそれほど深刻です。しかし、研究活動のない大学はもはや大学とは呼べない、というのまた現実なのです。この紙面では、このような厳しい状況の中、いかにして研究を行い、それを本学の発展に結びつけていくかということを考えてみたいと思います。

関東学院 各校 NEWS

大学

2008年度報告

2008年に新たに 海外の4大学と交流協定を締結

本学では、海外の大学と学術交流協定・交換留学協定を締結し、学術分野で教員交流を行うとともに、多くの学生に留学・語学研修の機会を提供してきました。今後ますます海外の大学と交流を深め国際交流を推進するため協定校を増やす方針です。特に2008年は東アジア地域での交流を深めるため、

ロシア 太平洋国立大学、タイ チェンマイ大学、中国 北京第二外国语学院、中国 上海応用技術学院の4校と新たに交流協定を締結しました。

チェンマイ大学からは、学長を招いて交流協定の調印式を実施したいとの要望がありました。学長の公務都合により、長くチェンマイ大学と交流を重ねている森島牧人学院長（文学部教授）に学長の代理として調印式に出席いただき、11月26日付両校の交流協定が調印されました。



左：森島学院長、
右：チェンマイ
大学Pongsak
Angkasith学長

公開シンポジウム

「大学スポーツと人間形成」を開催

12月1日、金沢八景キャンパスで「大学スポーツと人間形成」と題するシンポジウムを開催しました。司会はNHK解説副

委員長で本学非常勤講師の山本浩氏、パネリストにサッカー解説者で（財）日本サッカー協会理事の風間八宏氏、弁護士で日本スポーツ法学会会員の川添丈氏、岐阜経済大学客員教授で前慶應義塾大学野球部監督の後藤寿彦氏、新体操インストラクターで（財）日本体操協会理事の山崎浩子氏を迎え、本学からのパネリストとして前学生生活部長の吉原高志工学部教授が加わって、本来の大学スポーツのあり方と意義についていろいろな視点から話し合われました。

まず、大学スポーツの魅力は何かについて、大学時代にスポーツ選手として活躍された風間氏、後藤氏、山崎氏から発言があり、大学スポーツは、自己責任が伴うとはいえ自由に取り組めることが魅力であり、充実感と達成感に満たされた時期だったと話されました。続いて「今の学生気質」へと話題が進み、各パネリストは、直接間接的に大学スポーツに関わる立場から大学スポーツの現状と自身の学生時代を比較、昨年、本学において発生した大麻事件も取り上げられました。今の学生は素直という意見が出る一方、それゆえ無防備で無自覚、周囲に流される傾向が強いという意見が出ました。それは、友だちに誘われて大麻を吸ったという行為にも現れており、事件を起こしたらどういふ結果になるか、想像力も不足している」と山崎氏は言い、注目される団体はもとより学生二人ひとりとそのスポーツの広告塔であることを自覚すべきだと話されました。

大学スポーツにおける人間形成については、各パネリストから、スポーツに勝敗はつきものだが、人間は失敗と成功を繰



り返して成長するものだということ、部員同士のコミュニケーションを通して健全な人間形成が図られること、勝つことをめざして努力することは自分に克つことであり、人格が形成されていくファクターであるとの見解が示されました。

吉原教授からは、昨年大麻事件について、大学の課外活動に対する位置づけが明確でなかったこと、その体制や指導者と部員の人数を含めたバランスが不適切と思われたなどが自戒を込めて話され、再発防止への固い決意が示されました。



初はわからなかつた言葉も「味噌の中にキユウリを放り込めば自然に馴染む」の理で、自然に日本語を習得できたと言いま

楊逸氏は越境者としての立場から「越境者の日本」をタイトルにお話いただいたのですが、楊氏いわく外国人の宣教師によつて創立された関東学院こそ越境者の先駆けではないか。中国にいる時、情報から隔絶された環境にいた楊さんにとつて、日本について知っているのは日中戦争のころぐらいで想像するだけの国でした。留学の機会を得てやってきた日本には想像以上の面白いことがたくさんあったと言

11月22日、関東学院創立125周年記念事業の一環として、また文学部設置40周年文学研究科設置15周年を記念し「越境することは、越境する想像力」と題する講演が開催されました。講師には母語ではない日本語で文筆活動に励み、第139回芥川賞を受賞された中国籍の楊逸氏とアメリカ生まれのリービ英雄氏をお招きし、越境をキーワードにお話いただきました。

楊逸(ヤンイー)氏とリービ英雄氏を招き文学部設置40周年・文学研究科設置15周年記念講演会開催

います。最初はわからなかつた言葉も「味噌の中にキユウリを放り込めば自然に馴染む」の理で、自然に日本語を習得できたと言いま

16歳から日本に住んだリービ英雄氏は日本語にある種の引力を感じ、その引力ゆえに、アメリカの大学に籍を置きながら、身は日本におき、奨学金を得て日本文学の勉強をしていました。アメリカにいる時はドナルド・キーン博士の日本語研究の領域で大江健三郎や三島由紀夫の作品を読み、徐々に古い時代に遡る過程で万葉集にたどりつきました。その時、新しい文学に出会ったような新鮮な感動を覚えたそうです。万葉集からは純粹に言葉の感覚、書き言葉には限りない可能性があるということ学びました。特にイメージの描き方は秀逸でした。奈良時代の歌人たちは人間の細かい

す。日本語に興味を持つきっかけになったのが「肩こり」という言葉、中国で肩に妙な感覚を抱くと「肩が痛い」とだけ表現するとこ



万葉集の英訳をした作家 リービ英雄氏

ろを、日本語では痛いだけではない複雑な感覚を「肩こり」と表現する。この表現に日本語の微妙な感性を知り惹きつけられたと言います。母国である中国の常識、楊氏は常識というのは従うものでも、守るものでもなく破るもの、常識を破つた形が想像力ではないか、自分の国に捉われず非常識人間になるのは想像力の涵養になると結びました。

心理を描くために自然現象を用いて鮮やかなイメージにつくりあげる、映像に近い言葉の技術や発想を持っていたのです。万葉集を翻訳すると決めて読み進めるうちに、山上憶良が朝鮮出身の歌人で日本文化の内部に入り込んだ人だとわかりました。越境とは21世紀の新しい現象のように見えるが、日本語が初めて書かれた時代に既にそのような現象があったのです。山上憶良を越境させたのは日本語そのものの魅力だった、文学はこちらから他国の場へ越境して、新しい発見をし、それを布達報告するものであるとリービ氏は結びました。

[Kanto Gakuin University]

New agreements with four overseas universities

Our university has agreements for academic cooperation and student exchange with universities overseas, promoting exchange of faculty members in their academic fields and providing students with opportunities for studying at overseas universities and learning languages abroad. In 2008, with the hope of expanding our academic exchange activities in the East Asian region, Kanto Gakuin University signed new exchange agreements with Pacific National University in Russia, Chiang Mai University in Thailand, Beijing Second Foreign Language University in China, and Shanghai Institute of Technology also in China. On November 26th, signing ceremonies were held at Chiang Mai University and Kanto Gakuin University for the agreement between these two institutions.

Open Symposium "University Sports and Character Building"

On December 1st, a symposium "University Sports and Character Building" was held on the Kanazawa Hakkei Campus. The moderator was Hiroshi Yamamoto, Deputy Chief Commentator at NHK and Adjunct Professor at Kanto Gakuin University, and panelists consisted of Yahiro Kazama, Director of the Japan Football Association; Jo Kawazoe, member of the Japan Sports Law Association; Toshihiko Goto, Guest Professor at Gifu Keizai University; Hiroko

Yamazaki, Director of the Japan Gymnastic Association; and Takashi Yoshihara, Professor at Kanto Gakuin University College of Engineering. They discussed how university sports should be and the significance of university sports from various points of view.

Lectures by Yang Yi and Hideo Levy commemorating the 40th anniversary of the College of Humanities and the 15th anniversary of the Graduate School of Humanities

On November 22nd, as one of the 125th Anniversary Projects, lectures under the title "Cross-Border Languages, Cross-Border Imagination". One of the two lecturers invited was Yang Yi, a Chinese national, who has received many literary awards. She gave a lecture on "Japan for Cross-Borderers" from her viewpoint as one who has crossed the border. The other lecturer, Hideo Levy, who was born in the United States, gave a lecture based on the keyword of cross-border.

Two marathon runners from Kanto Gakuin in Hakone Ekiden Road Relay

Two students of Kanto Gakuin participated in the 85th Tokyo-Hakone round-trip College Ekiden Road Relay held on January 2 and 3, 2009 as representatives of the Inter-University Athletic Union of Kanto. Shigenori Kawaguchi (senior, College of Economics) ranked 7th in his leg and Tomonori Sakamoto (senior, College of Economics) ranked 13th in his leg of the race.

箱根駅伝を往路・復路とも
学連選抜代表として2選手が快走!
2009年1月2日・3日に開催された第85回東京箱根間往復大学駅伝競走で関東学連選抜代表として、本学から2名の選手が出場しました。川口成徳選手(経済学部4年)は往路3区(戸塚〜平塚)を区間順位7位で、また坂本智史選手(経済学部4年)は復路9区(戸塚〜鶴見)区間順位13位で好走しました。この結果、関東学連選抜は、総合順位9位となり、次回予選会枠の1枠増に貢献いたしました。

国語科の取り組み — 伝統芸術鑑賞

本校国語科では、中1対象の狂言教室と、中2対象の歌舞伎鑑賞教室の2つをカリキュラムに組み込んでいます。

以前は、年1回行われる県青少年センター主催の狂言鑑賞教室に、他校と共に参加しておりました。残念なことにこの催しは中止となつて2年ほど鑑賞は中止しておりますが、7年前からは狂言師の先生方をお招きして、グレセット礼拝堂で鑑賞教室を持つよう



になりました。思いがけぬご縁もあって今は善竹十郎家にお願いで6年目になり、今年で6年目になります。以下、11月の半ばに行われた今年の鑑賞教室の概略を記します。

がやがやとにぎやかだった生徒が学年の先生方のご指導で静かになると、そろりそろりとご長男の善竹富太郎さんが登場します。普段は見ることのない静かな動き、腹の底から大きなお声。ユーモアたっぷりに最初の番組「附子」の解説が始まります。熱の入った「附子」の解説が始まると、再び富太郎さんにより「盆山」の解説。良いポイントで笑ってくれたとお褒めの言葉をいただいたこともあって、生徒もぐつと引き込まれていきます。続く「盆山」は、盆山(盆栽)を盗みに入つた者が持ち主に見つかり、あれこれ鳴きまねをさせられるというお話で、最後には鯛の鳴きまねを求められるものですが、これも大爆笑で休憩に入ります。何人かの生徒は「ターイタイ」と真似をするほど。

しばしの休憩の後は、クラスの代表12名の生徒が靴を脱いで舞台上に上り、



体験講座となります。挨拶から始まり、基本的な狂言の構え、歩き方などを教えていただくのですが、ほとんどの生徒は立つて静止することもできません。しかし、先生方の懇切なご指導によって、少しずつ形になっていきます。最後は扇をお借りした上、歩きながら大きな声で科白を口に

し、挨拶をして番組は終了。

中2では6月に国立劇場の歌舞伎鑑賞教室に参加しています。基本的には午前中に通常の授業を受け、移動して14時からの部を鑑賞する形です。イヤホンガイドを配布して、鑑賞しやすくするようにしています。本物の歌舞伎の劇場で、江戸から今にいたるまで、人々を魅了し続ける芝居をまずは体験することがその目的ですが、生の舞台な

[Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools]

The traditional appreciation of art

The Japanese language curriculum for the Kanto Gakuin Junior High School includes a *kyogen* class for the first-year students and a *kabuki* appreciation class for the second-year students, both of which are annual one-day classes. In the *kyogen* class, *kyogen* performers are invited to give a lecture and performance at Gressitt Chapel. The second-year students appreciate *kabuki* at the National Theater in June. It is important to provide students with an opportunity to see a "genuine" performance. Nothing can replace the emotions evoked by a genuine performance. What they gain from these experiences will become precious treasures for them in the future.



らではの華やきなどを感じてもらおうとができればなお幸いです。なお、本校OBには観世流や宝生流で活躍する優れた能楽師もいらつしています。将来的にはこうした方々のご協力をおおいで、いずれかの学年に能楽鑑賞を組み込むことができればとも考えています。いずれにせよ、生徒には文字通りの本物を見ることが大切です。そこで生まれる感動こそが、生の舞台を鑑賞する醍醐味であり、生徒の将来の大切な財産になるのだと思つています。

1年生美術研修

まだ残暑の厳しい9月12日(金)、校内で1年生美術研修を行いました。この研修は、毎年1年生で行っている授業で、今年は「ワークショップを体験しよう」というテーマで、鎌倉市にある湘南美術学院という美術系大学進学予備校の講師20名に来校していただき、実習をしました。



5つの課題「リアル石膏彫刻制作」「壁画制作」「エコバッグデザイン」「ミニ屏風制作」「コマ撮り映画制作」の中から希望を取り、それぞれの教室に分かれて授業を受けました。



午前9時実習開始。講師の先生方と対面。これから始まる制作に期待が膨らみます。

「リアル石膏彫刻制作」粘土で作った型やゴム風船などに石膏を流し込み、本物そっくりの彫刻を作りました。自分たちが持ってきた模型や人形、中には自分の手まで型にして取り組んでいました。興味は尽きず、石膏で真っ白になりながらも、次々と目を輝かせながら作っている生徒の姿が印象的でした。

「壁画制作」本館2階の壁面にマスキングテープを貼ったり水性マジックを使うなどして「みんなの町並み」をテーマにグループで制作しました。この日は童心に帰り、お店や風景、人や動物を描いていました。予定していた壁面を悠に超えて階段の壁まで使用し、巨大な作品に仕上がりました。

「エコバッグデザイン」環境問題をテーマ

マに、エコバッグをデザインしました。水に濡れても色落ちしない布に描ける特殊なインクを使って、動物の模様をデザインしましたが、アイデアの段階で四苦八苦、それでもキリンや牛の柄のエコバッグが完成しました。

「ミニ屏風制作」銀箔を貼ったミニ屏風を作るべく、生徒たちは初めての箔貼りに挑戦しましたが、風が少しでも吹くとひらひら舞う銀箔に思わぬ苦戦、破れてしまう生徒もいましたが、立派な銀屏風が出来上がりました。

「コマ撮り映画制作」デジタルカメラを使用して、モーションキャプチャーによる特撮映画を作りました。2グループに分かれ、講師の先生が考えたストーリーに添って、号令と共に人物の生徒たちが少しずつ動いた状態をコマずつ撮影します。炎天下のグラウンドで一枚一枚撮影する作業は根気のいるものですが、写真を編集して出来上がった作品は、コミカルでユーモアなものになりました。



午後は、講

[Kanto Gakuin Mitsuura Junior and Senior High Schools]

Art workshop for the first year students at Mitsuura Junior High School

An annual art workshop is included in the art class for the first year students as a special program. For the art workshop this year, which was held on September 12th, 20 art teachers were invited from Shonan Art School in Kamakura. The workshop consisted of five courses: gypsography, mural painting, design of eco-friendly bags, mini-folding screen production and time-lapse film making. Students were engaged in production in the morning and in the afternoon they received comments on their works from the art teachers as well as enjoyed looking at other students' works. This workshop provided a precious opportunity for the students to experience art production that is otherwise hardly possible and communicate first hand with artists with whom they were unfamiliar.



評と鑑賞の時間です。礼拝堂に集合し、講師の先生から完成した作品について講評をいただきました。午前中に夢中になり過ぎたのか、生徒たちは少しおとなしく、それでも鑑賞の時間ではお互いの作品を見て驚きと笑いが絶えませんでした。この日予定していたコマ撮り映画の鑑賞は、残念ながら編集が間に合いませんでしたが、後日全クラスで鑑賞した際は笑いとお驚きの試写会となりました。

この日は、生徒たちにとって遠い存在だった美術と芸術家が、少し身近に感じられた日となったのではないのでしょうか。生徒たちの今後の学校生活において、この研修が彩りを添えてくれることを期待します。



小学校

小学校司書教諭 徐 奈美

キラキラ読書クラブの ブックトーク

10月28日と11月14日の2日間、『キラキラ読書クラブ子ども本644冊ガイド』（日本図書センター）の編者である市川純子さん、青木淳子さん、杉山さく子さん、福本友美子さんの4名が小学校でブックトークをしてくださいました。子どもたちに「おもしろい本、いい本を届けたい」という思いで『キラキラ読書クラブ』を作ったこの4名は、次は子どもたちに直接、本を紹介したいと思っていたのです。

ブックトークとは、つのテーマを軸に、次々に本を紹介する方法です。今回、4年生で行ったブックトークを紹介し



リアリー作学研の主人公ヘンリーは、友だちの新しいボールをなくしてしまい、弁償することになりました。お小遣いでは足りません。その時、

釣りに行くおじさんがミミズを1匹1セントで買ってくれると言ったのです。ヘンリーは、ミミズ採りに夢中になりました。次の『はちうえはほくにまかせて』（マーガレット・グレム絵、ペンギン社）のほくは、夏休みのあいだ、近所の鉢植えを1つ2セントで預かって、家中鉢植えだらけにしてしまったのです。『ピトゥスの動物園』（スリバス作、あすなろ書房）では、病気の友だちを助けるために、動物園作りを計画しました。「子どもがお金を手にするには」という一つのテーマで合計5冊の本を紹介していただきました。ブックトークの後には、紹介された本を手にとったり、借りたりする子どもがたくさんいます。

今回は、2年生から5年生の合計8クラスでブックトークを行いました。どのクラスでも、本の紹介たっぷりの時間となりました。

[Kanto Gakuin Primary School]

Book talks by the Kira-Kira Reading Club

On October 28th and November 14th, Junko Ichikawa, Junko Aoki, Kikuko Sugiyama and Yumiko Fukumoto gave "book talks" at the elementary school. They are the compilers of "Kira-Kira Reading Club's Guide to 644 Children's Books."

A "book talk" is an introduction to books under one theme. The books they introduced in these book talks included "Henry Huggins," "The Plant Sitter" and "El zoo d'en Pitus." The guests shared lots of information on children's books at 8 classes from the second to the fifth grades.

六浦小学校

六浦小学校教諭 梅田 祥司

タイと日本をつなぐ ストラップ



昨年度関東学院六浦小学校では、第7回タイ訪問を実施しました。その時

に日本からビーズをたくさん持っていき、寮の子ども達に小さなビーズアクセサリーを作ってもらいました。寮の子ども達もビーズアクセサリーを作るのはおそらく初めてだっただろうと思います。でも、一つ一つ真剣になって作ってくれました。

そのアクセサリーを日本に持ち帰り、関東学院六浦小学校のチャペル委員会での話し合いをした結果、手直しをしたり、ストラップを付けたらして11月のバザーで販売することになりました。タイの寮の子

[Kanto Gakuin Mutsuura Primary School]

Straps connecting Thailand and Japan

Mutsuura Primary School sent the 7th mission to Thailand in 2008. Students participating in the trip to Thailand took many beads with them from Japan to have children at the dormitory in Thailand make small beaded accessories. The children made them very carefully, one by one. The accessories they made were brought back to Japan and sold at the charity bazaar in November after attaching straps to them. At the bazaar, these straps made by Thai children and finished by Mutsuura Primary School children were sold at a booth called "Chapel Smile." The profits from this bazaar will be used as part of the expenses needed to invite children learning at the dormitory to come to Japan, which is one of the projects commemorating the 125th anniversary of Kanto Gakuin. These two areas far apart from each other have been connected by small beaded accessories.

ども達を作り、日本の関東学院六浦小学校の子ども達が仕上げたこのストラップは、チャペルマイルというブースで販売されました。そしてこの収益は、今年関東学院創立125周年の記念事業として、寮の子ども達を日本に招待するための一部として使う予定です。

寮の子ども達は関東学院六浦小学校の子ども達の事を思い、いつも祈りの中に覚えていてくれます。その思いがたくさん詰まったビーズアクセサリーを関東学院六浦小学校のチャペル委員の子ども達は、寮の子ども達の事を思い、彼らと日本で会う事ができるようにとの思いを込めて仕上げました。

そして、このストラップを買って頂いた方の心の中にもその祈りと思いが伝わったのではないのでしょうか？

遠く離れた二つの地を、こうして小さなビーズアクセサリーがつないでいます。



**[Kanto Gakuin
Mutsuura
Kindergarten]**

First harvest

On a clear day in November, children of Mutsuura Kindergarten harvested sweet potatoes in its small field. As they kept digging, lots of sweet potatoes came out of the ground. They were much larger than they had expected, and some were even larger than an adult's face. The children were paired and each pair carried a bag filled with sweet potatoes to the kindergarten, and all looked very satisfied. On a later day, we held a harvest thanksgiving service with fruit and harvested sweet potatoes on display at the hall. The five-year-old class made wreaths from sweet potato vines for Christmas presents.



追浜校地の小さな畑。5月に子ども達と大学の肥土先生と一緒に植えたさつまいもの苗は、神様に守られ雨とお日様の恵みを受けてどんどん大きくなっていきました。苗の世話をするために畑に通う度、畑からあふれんばかりに茂っていく葉の様子を見て、年長組の子ども達はその生命力に驚いていました。葉っぱの影に隠れている草を見つけるのも大変になってきたある日「あつ、お芋だあ！」と葉っぱの下に少しだ

け見えていたお芋の頭を見つけて子ども達は大喜び！葉だけではなくちやんとお芋が育っていた事に驚きと喜びと感謝の気持ちに包まれました。幼稚園に戻つて、子ども達はどんなお芋がなっているか想像してワクワクしていました。



11月の天気の良い日、待ちに待ったお芋の収穫。軍手をした手で子ども達が掘つていくと…次から次へとお芋が出てきました。その大きさは私達の想像をはるかに超えていました。大人の顔よりも大きなお芋を子ども達は袋に入れて二人組で幼稚園まで運びました。お芋はとても重かつたけれど子ども達は満足した表情でした。後日ホールに果物と一緒にお芋を並べて収穫感謝礼拝を守りました。長いお芋のつるは年長組の子も達がりリースにしてクリスマスにお家へプレゼントしました。

六浦幼稚園

主任 鈴木直江

初めての収穫に…



11月の天気の良い日、待ちに待ったお芋の収穫。軍手をした手で子ども達が掘つていくと…次から次へとお芋が出てきました。その大きさは私達の想像をはるかに超えていました。大人の顔よりも大きなお芋を子ども達は袋に入れて二人組で幼稚園まで運びました。お芋はとても重かつたけれど子ども達は満足した表情でした。後日ホールに果物と一緒にお芋を並べて収穫感謝礼拝を守りました。長いお芋のつるは年長組の子も達がりリースにしてクリスマスにお家へプレゼントしました。

**[Kanto Gakuin
Noba Kindergarten]**

Get-togethers to grow together

At the beginning of November the kindergarten children joined the Noba Festa. On that day, a play "Pakkun-no Boken" about recycling, which had been prepared since last summer, was performed. There were also seven corners for different toys made of recycled milk cartons and nuts, a pool of fallen leaves, a ride on a city bus "Akai-kutsu" and a fire engine. Children also learned sign language from three senior high school students and two teachers from Yokosuka School for the Deaf. At the Christmas Concert, the children sang a song together with children from Mutsuura Kindergarten using the sign language.



公園の木々が鮮やかな紅葉に包まれる11月初め、地域の保育園・幼稚園と横浜地域振興課・環境循環局共催の野庭フェスタが近隣の公園で行なわれました。当日はリサイクルを考える「ぱくくんの冒険」劇・牛乳パックや木の実で作る遊び道具コーナーが7つ・落ち葉プール・市営バス「あかいくつ」号と消防車試乗・昔遊び・絵本などが用意されました。夏より準備を始め、年長児たち同士も交流を重ねて当

公園の木々が鮮やかな紅葉に包まれる11月初め、地域の保育園・幼稚園と横浜地域振興課・環境循環局共催の野庭フェスタが近隣の公園で行なわれました。当日はリサイクルを考える「ぱくくんの冒険」劇・牛乳パックや木の実で作る遊び道具コーナーが7つ・落ち葉プール・市営バス「あかいくつ」号と消防車試乗・昔遊び・絵本などが用意されました。夏より準備を始め、年長児たち同士も交流を重ねて当日を迎えられた為、お互いになれた事が楽しさを膨らませています。

12月、クリスマス礼拝で歌う賛美歌に手話をつけたいとの希望が年長児より出されました。夏のボランティアに来ていた横須賀聾学校の高校生に問い合わせたところ、学校より学生3名・先生2名に教えに来て頂くことができました。直接相談して手話を作ったことで、コミュニケーションとしての言葉（手話）の世界が広がりました。学院のクリスマスコンサートにて六浦幼稚園のお友達と一緒に手話で歌うことができ喜びも膨らみました。

野庭幼稚園

主事 小高千恵

育ちあう出会い



12月、クリスマス礼拝で歌う賛美歌に手話をつけたいとの希望が年長児より出されました。夏のボランティアに来ていた横須賀聾学校の高校生に問い合わせたところ、学校より学生3名・先生2名に教えに来て頂くことができました。直接相談して手話を作ったことで、コミュニケーションとしての言葉（手話）の世界が広がりました。学院のクリスマスコンサートにて六浦幼稚園のお友達と一緒に手話で歌うことができ喜びも膨らみました。

SCC館2・3階フロアリニューアル ～花も実もあるSCC～

SCC
(Science & Culture Center)

SCCの2・3階が昨秋、リニューアルオープンしました。SCCは金沢八景キャンパス正門から中庭越しに見える4階



建ての建物です。その2階には大学のPC教室の管理のみならず、関東学院のネットワーク(OliveNet)の管理運用を担当する情報科学センターとその運用課があり、SCCは本学のICT(Information & Communication Technology)のわばヘッドクォーターと云うこととなります。

リニューアルの目的

PCを利用した教育はいまや理系学部に限らず、幅広い分野で行われるようになり、コンピュータリテラシーは学部教育の基礎の一部とさえなっています。しかし、PC利用の拡大は同時に利用の仕方が多様になることを意味します。たとえば、工学部や人間環境学部で行われているデザイン関係の授業ではCAD(Computer Aided Design)コンピュータ支援設計)の利用が多いのですが、これには高い画像処理能力が求められます。情報科学センターが管理している教育用のPCは凡そ2000台に及び

ます。そのすべてに高い能力を備えることはコストの面でも、また実際の授業利用の点でも合理的ではありません。そこで、SCCは高性能のPCを中心に構成して金沢八景キャンパスのPC教室の棲み分けをすることにしました。

リニューアルの概要

SCC3階は教室フロアとしました。画像処理能力の高いPCに入れ換え、授業担当者の意見を取り入れて教室サイズを変更しました。このパーティション変更に伴って天井の照明の変更や床の張り替えなど、以前に比べて明るい教室になりました。

2階にはオープン利用スペースの他に新たに教育支援ブースが設置されました。今年度から大学全体でLMS(Learning Management System)授業支援システムが導入され、春秋を通じて約1000もの授業科目で利用されていますが、このシステムを利用する教員をサポートとする部署としてセンター運用課のなかに教育支援係が設置され、このブ

ースは具体的な支援作業の場となっています。

実だけでなく花も！

今回のリニューアルの目玉は2階のデザインが一新されたことにあります。教室では実用性が要求されることは言うまでもありません。しかし、学生さんたちがオープンな環境でPCを学びに自由に活用する2階では別な要素があつてもよいのではなか、若い人たちが楽しく生き生きと活動できる雰囲気を持ったスペースにしたい。そのためには本学の学生さんの感性を活かしたいと考えました。そこで、2007年秋、SCC Floor Design Competitionを開催し、最優秀賞を受賞した工学研究科の芦澤祐太さんと弓矢健太郎さんの作品「Simple Creative Center」を今回のリニューアルで採用しています。グループ学習もできるような座席配置や本学スクールカラーであるグリーンを基調とするストライプ柄のシールを貼ったガラスをパーティションに多用するなど、ユーザの視点に立った機能性だけでなく、開放的で透明感のあ

る明るいデザインが取り入れられています。

今回のリニューアルには多くの方の協力をいただきました。デザインコンペの賞金については内藤理事長、松井学長、平松工学部長が私費を投じて下さいました。選考に際しては、湯澤工学部教授、中島人間環境学部教授、本田副学長が審査委員を引き受けて下さいました。また、実現に向けては、従来の施設改修以上に手間が生ずるなか、野地施設部次長をはじめ担当職員の方々が協力して下さいました。この場をかりて改めて御礼申し上げます。



Renovation of SCC's second and third floors

The second and third floors of the four-storyed SCC building, which is seen from the main gate of the Kanazawa Hakkei Campus, have been renovated. A Competition for the design for the second floor was held, and the new design is entitled "Simple Creative Center." This was designed by Yuta Ashizawa and Kentaro Yumiya, a graduate student in the college of Engineering's Graduate School. Partitions as well as lighting fixtures on the ceiling and floor covers were changed in the classrooms on the third floor. These changes have made the entire 3rd floor brighter than before. The Information Science Center, which controls the university's PC classrooms, and its Operation Department are located on the second floor. The Information Science Center is also responsible for management and operation of the Kanto Gakuin Network, "OliveNet." In addition to open spaces, educational support booths were newly added in this renovation. The university-wide Learning Management System (LMS) has been used since the beginning of this academic year and the booths on the 2nd floor are used for about 1000 classes throughout the spring and fall semesters.

生涯学習センター講座紹介

Lifetime Learning Center

More than 2500 people were enrolled in the 2008 spring and fall semester course at the Lifetime Learning Center. Various kinds of interesting classes were offered on our campuses and at the Kannai Media Center. The "Health Sports Class - Rugby" and "Basketball class for junior high school students" were very popular among children. Classes where students can experience Japanese culture, language classes, including English, French, Chinese and Korean, and computer classes have also attracted many students. The Lifetime Learning Center will offer many new and unique classes in the future, such as a walking field trip in the Kanazawa Ward area, which is being planned by the Kanazawa Ward Office.

生涯学習センターは2008年の春と秋の講座に、2500人をこえる受講者を得ました。金沢八景、金沢文庫、小田原の各キャンパス、KGU関内メディアセンターを会場として、様々な興味深い講座を開講できました。

健康スポーツ講座のラグビー、中学生のバスケットボールなどは子どもたちに大好評です。日本の文化として、「大学で寄席を」は今大流行の落語です。また「美しき能の世界」もふだんあまり接せられない日本文化の深い味わいを直に体験できた人気講座です。

語学講座も、英語・仏語・中国・韓国語と初級コースだけでなく、中上級コースに多くの方が来て下さいました。「継続は力なり」です。2009年度も充実した語学講座やパソコン講座を引き続き開講します。

関東学院は創立125年の記念の年を迎えます。生涯学習センターでは、建学の精神であるキリスト教を分かりやすく講義する講座を「キリスト教と文化研究所」との協賛で開講します。また地元の金沢区役所後援の企画の「金沢」の街を散策する講座など、新しい企画、ユニークな講座も次々に打ち出します。ぜひガイドブックを手にとって下さい。



「能面、能装束を体験——美しき能の世界」



「お皿作りにチャレンジ——親子陶芸教室」

編集後記

読者の皆様、ご愛読頂きありがとうございます。学校法人関東学院は、1884年創設の横浜ハブテスト神学校を源流とし、キリスト教を建学の精神として学校教育を実践し、「一人になれ 奉仕せよ」を校训として人格教育を行っています。この教育は、変わることなく受け継がれ、本年をもつて学院創立125周年を迎えます。この記念すべき2009年には、これまでの歴史の歩みを振り返るとともに、次の150年へ向けた大きな発展の契機となるようお願いいたします。

さて、2007年3月発行の「関東学院学報No.35号」P12の4段4行目の「関東学院大学事務取扱」は、「関東学院大学学長事務取扱」の誤りでした。訂正しお詫びいたします。

(総務部広報課)

学院や学報についてのご意見やご感想をお寄せください。

宛先 関東学院 法人事務局広報課 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL: 045-786-7006 E-mail: kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

■春学期開講講座一覧

実施場所	講座名	
金沢八景キャンパス	南イタリア都市紀行～ナポリとその周辺～ 地元「金沢」の歴史を知らう 1 ラッピングコーディネーター講座 暮らしの中の色彩講座 メタボリックシンドロームと健診と保健指導 世界遺産でフランス語会話中級 フランス語講座上級スタンダード 『ハルム僧院』読む 韓国語入門 韓国語中級 中国語初級 中国語中級 やさしいパソコン講座 日本の文化ー美しき能の世界 その二 日本の文化ー伝統工芸・鎌倉彫(入門編) 源氏物語の世界 心が通うコミュニケーション実習 コンサートシリーズ第12回 キリスト教とは何かー関東学院の建学精神を学ぶ 保育実践講座 親子陶芸教室 陶芸入門【ひもづくりで作る器】	
	杉田ゴルフ場	健康スポーツ講座ゴルフ
	金沢文庫キャンパス	健康スポーツ講座 ラグビー 英会話
		小田原キャンパス
	KGU関内メディアセンター	アソシエイト ホスピタリティ・コーディネーター養成講座 ラッピングコーディネーター講座 韓国語初級 哲学初歩・9 カントと現代(1) 実践ファイナンシャル講座 やさしいパソコン講座 仕事に役立つ! 効果的なExcel活用編 第6回ポエトリー・リーディングとトーク 平和について語る 5 ギリシャ古典を読む1

■資格講座一覧

実施場所	講座名
金沢八景・金沢文庫・小田原キャンパス	秘書技能検定2級試験対策講座
金沢八景キャンパス	インテリアコーディネーター試験対策講座(1次) 宅地建物取引主任者試験対策講座 旅行業務取扱管理者(国内・総合)試験対策講座 TOEIC試験対策講座 ホームヘルパー2級養成講座 3級ファイナンシャル・プランニング 技能士試験対策講座 ITパスポート試験対策講座 日商販売士2級検定試験対策講座 マイクロソフトオフィススペシャリスト試験対策講座 日商簿記検定2級試験対策講座 日商簿記検定3級試験対策講座 秘書技能検定準1級試験対策講座(1次)

小学校	六浦小学校	六浦幼稚園	野庭幼稚園
1(水)～4日(土) 学年始休業 6(月) 入学式 7(火) 始業式 10(金) イースター礼拝 15(水) 父母の会総会 21(火) 全国学力学習状況調査 28(火) 5年生 春の遠足	6(月) 始業式 7(火) 入学式 8(水) 身体測定 10(金) イースター礼拝 21(火) 防犯教室(下学年)、 携帯電話講習会(1学年) 22(水) 心電図検診(1・5年)、方面別集会 24(金) 避難訓練 25(土) 授業参観、しおん会総会	6(月) 進級式 8(水) 入園式 9(木) クラス打ち合わせ会 13(月) ろばの子会(預かり保育)開始 13(月)～16(木) 個人面談 17(金) おりぶ会(保護者会)総会 21(火)、23(木) 教育相談 22(水) 誕生会	1(水) ロバの子クラブ開始 8(水) 入園式、進級式 9(木)・10(金) 保護者連絡会 13(月)～17(金) 個人面談(年少・年中) 14(火) イースター礼拝 20(月) わかば会(保護者会)総会 23(木)・24(金) 身体測定 29(水) 誕生会
1(金) 1・2年生 春の遠足 7(木) クラス委員全体会 8(金) 3・4年生 春の遠足 11(月) 方面別集会 15(金) 授業参観① 19(火) 漢字・計算テスト 21(木) 方面別集団下校 22(金) 6年生社会科見学(鎌倉) 28(木) 3年生社会科見学 29(金) ペンテコステ礼拝 30(土) 親子の集い 31(日)～6/2(火) 関東学院フェア	7(木) 1年生歓迎遠足 8(金) 母の日礼拝 12(火) 校内見学会1 30(土) 運動会	1(金) なかよし会 7(木)、19(火)、26(火) 教育相談 8(金) 母の日礼拝 12(火) オープンすくすく(教育相談) 13(水) 誕生会 16(土) 子育て講演会 20(水) 1年生同窓会 20(水)、25(月) バイブルクラス 21(木) 春の親子遠足	11(月) わかば会講演会 14(木) 内科検診 15(金) 家族の日礼拝 20(水) 座談会(4・5月) 21(木) 歯科検診 22(火) 親子遠足 23(土) 1年生同窓会 26(火) バイブルクラス 27(水) 誕生会 29(金) 避難訓練
3(水) 春の屋内なかよし会 4(木) カメハメハ・ミドル・スクール公演 6(土) 県下キリスト教学校展 9(火) 学校説明会① 10(水) 4年生社会科見学 12(金) 花の日礼拝 漢字検定① 15(月) 水泳指導開始 17(水) 学カテスト 29(月)・30(火) 1年生みどりの学校(葉山)	10(水) 院内学校説明会 12(金) 花の日礼拝 19(金) 学校説明会1 24(水) 救助訓練	3(水)、4(木)、5(金) 身体測定 4(木) 歯科検診 8(月) 花の日礼拝 9(火)、11(木)、16(火)、25(木) 教育相談 10(水) 子育て講演会 11(木) 内科検診 12(金) クラス懇談会(年長) 12(金)、24(水) バイブルクラス 15(月) クラス懇談会(年少) 17(水) 誕生会 19(金) クラス懇談会(年中) 19(金) 避難訓練 27(土) 幼稚園 創立60周年記念バザー 30(火) オープンすくすく(教育相談)	5(金) 年長保育参加 8(月) わかば会 8(月)～12(金) 年長個人面談 10(水) ひとみ座観劇① 11(木)・12(金) 花の日礼拝・訪問 20(土) プレイデー(おうちの方と遊ぼう) 24(水) 誕生会 30(火) バイブルクラス
2(木)・3(金) 2年生みどりの学校(城ヶ島) 6(月)～8(水) 4年生みどりの学校(軽井沢) 5年生みどりの学校(清里) 13(月)～15(水) 3年生みどりの学校(天城) 6年生みどりの学校(蔵王) 17(金) 終業式 父母の会全体会 18(土) 夏季休業開始 21(火)～24(金) 個人面談 23(木)～31(金) 5・6年生夏期講習	1(水) 水泳開始 3(金) 校内見学会2 4(土) アブラハムの会 13(月)～14(火) 自然学校(2年生) 16(木)～17(金) 自然学校(1年生) 18(土) 夏の夕べ 21(火) 授業終了日 22(水)～ 夏休み 22(水)～25(土) 水泳指導	1(水) 7月誕生会 6(月) バイブルクラス 6(月)～10(金) 個人面談 7(火)、9(木)、14(火) 教育相談 8(水) 8月誕生会 15(水) 1学期終了 16(木)・17(金) 年長お泊り会	1(水) 誕生会(7・8月) 6(月) わかば会 8(水) 座談会(6・7月) 14(火) バイブルクラス 15(水) 終業式 16(木)・17(金) 年長見お泊り会(葉山) 21(火) 夏期ロバの子クラブ開始(～9/4) 30(木) 園庭開放
26(水)～28(金) プール開放 5・6年生夏期講習	中旬 第8回タイ訪問団	夏季ろばの子会(預かり保育)実施	6(木)・20(木) 園庭開放 25(火) 夏の夕べ
1(火) 始業式 2(水)～11(金) 夏休み作品展 5(土) 学院内幼稚園推薦入試 学校説明会② 7(月) 6年生学カテスト 8(火)～11(金) 出願受付期間 10(木) 方面別集団下校	1(火) 授業開始・避難訓練 5(土) 学校説明会2 8(火)～11(金) 自然学校(5年生) 9(水)～11(金) 自然学校(4年生) 15(火)～18(金) 自然学校(6年生) 16(水)～18(金) 自然学校(3年生) 25(金) 前期終業式 25(金)～29(火) 個人面談	1(火) 2学期始まり 4(金) 総合避難訓練 7(月)、8(火)、10(木) 身体測定 9(水) 誕生会 8(火)、10(木)、15(火)、24(木)、29(火) 教育相談 16(水) 子育て講演会 26(土) うんどう会 28(月) バイブルクラス 28(月)～ 保育参加	7(月) 始業式・防災引取訓練 8(火)・9(水) 身体測定 16(水) 誕生会 29(火) バイブルクラス 30(水) 座談会(8・9月)

主な学校行事予定(4月～9月)

	大学	中学校高等学校	六浦中学校・高等学校
4	3/27(金)～4/4(土) オリエンテーション(学部) 1(水) 春学期開始 1(水)～4(土) 履修指導(大学院) 1(水)～4(土) オリエンテーション(法科大学院) 2(木) 入学式 6(月) 春学期授業開始 29(水) 昭和の日(授業日)	1(水) 新入生登校日 4(土) 春季休業終了 6(月) 入学式 7(火) 始業礼拝 中学全体香柏会 8(水) 授業開始 中1オリエンテーション 9(木) 高校全体香柏会 香柏会総会 香柏会全体委員会 11(土) 中学イースター礼拝 13(月) 高校イースター礼拝 14(火) 高校イースター礼拝 28(火) 全校健康診断	6(月) 中学入学式 7(火)・8(水)・10(金) 1年生ガイダンス 9(木) 始業式 16(木) 中学イースター礼拝 17(金) 高校イースター礼拝 20(月) 生徒会演説会・選挙 中学学力推移調査 23(木) 健康診断 交通安全講習会 27(月) 生徒総会
5		7(木) 中学母の日礼拝 8(金) 高校母の日礼拝 18(月) 中3香柏会 19(火)～22(金) 中間試験 20(水) 中1香柏会 中1保護者対象クラブ活動説明会 22(金) 中2香柏会 25(月) 高1香柏会 26(火) 全校避難訓練 27(水) 高2香柏会 28(木) 中学ベンテコステ礼拝 29(金) 高校ベンテコステ礼拝 高3香柏会 30(土) オーストラリア研修旅行 第2回説明会	12(火)～15(金) 2年生自然教室 12(火)～16(土) 高2研修旅行 12(火) 高3卒業写真撮影 13(水)～16(土) 1年生オリエンテーション 13(水)・14(木)・16(土) 高3三者面談 14(木) 高1一日研修 15(金) 高3特別講話 28(木) 中学ベンテコステ礼拝 29(金) 高校ベンテコステ礼拝
6	7(日) 創造祭 8(月) 学生自治会定期総会	1(月)～3(水) 高1修養会 高3修養会 1(月)～4(木) 高2研修旅行 2(火)～4(木) 中2研修旅行 中3研修旅行 3(水)～5(金) 中1修養会 17(水) 中2歌舞伎鑑賞(午後)	3(水)～5(金) 高校中間試験 4(木)～5(金) 中学中間試験 5(金) ボランティア活動 17(水) 春季特別伝道礼拝(花の日) 17(水) 1年生施設訪問
7	【学部・法科大学院】 15(水) 春学期授業終了 16(木)～22(木) 補講及び春学期定期試験 20(月) 海の日(補講・定期試験日) 23(木)～29(水) 春学期定期試験 19(日)、26(日) 定期試験予備日 30(木) 定期試験予備日、夏期休業開始 【大学院】 20(月) 海の日(授業日) 22(水) 春学期授業終了 23(木)～29(水) 補講期間 30(水) 夏期休業開始 30(木)～8/7(金) 夏期集中講義期間 (但し、土・日曜日は除く)	6(月)～9(木) 期末試験 13(月) 答案返却 17(金) オーストラリア研修旅行 結団式 18(土) 平和祈願礼拝 21(火) 夏季休業開始 21(火)～24(金) 希望制夏期講習 前期 中学指名制夏期補習 前期 27(月)～8/10(月) 第10回オーストラリア研修旅行	6(月)～9(木) 期末試験(高1・高2) 6(月)～8(水) 期末試験(中学・高3) 10(金) 中学球技大会 11(土)・13(月) 高校球技大会 18(土) 終業式 20(月)～23(木) 高校勉強合宿 21(火)～27(月) 夏期補講・補習① 28(火)～8/10(月) 海外研修 31(金)～8/3(月) ボランティアキャンプ
8	【学部・法科大学院】 7/30(木)～8/7(金) 夏期集中講義期間 (但し、土・日曜日は除く) 17(月)～19(水) 追試験(学部) 24(月)～26(水) 追試験及び再試験(法科大学院)	7/27(月)～8/10(月) 第10回オーストラリア研修旅行 21(金)～27(木) 第4回ハワイ島理科研修旅行 25(火)～28(金) 希望制夏期講習 後期 中学指名制夏期補習 後期	7/28(火)～8/10(月) 海外研修 7/31(金)～8/3(月) ボランティアキャンプ 6(木)～9(日) サマーキャンプ 24(月)～29(土) 夏期補講・補習②
9	17(木)～19(土) 秋学期オリエンテーション(学部) 19(土) 春学期卒業式・学位授与式 20(日) 夏期休業終了・春学期終了 21(月) 秋学期開始 24(木) 秋学期授業開始	4(金) 夏季休業終了 5(土) 2学期始業礼拝 2学期授業開始 9(水) 中学生人権を考える礼拝 10(木) 高校人権を考える礼拝 30(水) 高1香柏会	1(火) 始業式 11(金) 1年生美術研修 16(水)～19(土) 3年生研修旅行 25(金) 1・2年生社会見学

Main Annual School Events(from April, 2009 to September, 2009)



関東学院大学

●金沢八景キャンパス

経済学部・工学部・人間環境学部
大学院（経済学研究科・工学研究科）
法科大学院

●金沢文庫キャンパス

文学部
大学院（文学研究科）

●小田原キャンパス

法学部
大学院（法学研究科）

☎045-781-2001(代)

☎045-781-2001

☎045-786-7179

☎0465-34-2211

関東学院中学校高等学校

☎045-231-1001

関東学院小学校

☎045-241-2634

関東学院六浦中学校・高等学校

☎045-781-2525

関東学院六浦小学校

☎045-701-8285

関東学院六浦幼稚園

☎045-781-0170

関東学院野庭幼稚園

☎045-845-0876

学校法人

関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

法人事務局 ☎045-786-7028 (代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して



この印刷物は大豆インキを使用しています。

古紙配合再生紙を
使用しています